

北九州市立大学文学部紀要

(人間関係学科)

第 25 卷

河嶋 静代教授 退職記念号

目 次

河嶋 静代

日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討 1

北九州市立大学文学部

2018年3月発行

日本と中国の大学生のLGBTに関する 意識についての試論的検討

河 嶋 静 代

Tentative Consideration of the Attitude about LGBT toward Japanese and Chinese College Student

In this research, I carried out a questionnaire toward Japanese and Chinese college students, and used preliminary surveys to complement. Then, I considered the social background behind the students attitudes. What I found out was that Chinese college students were less receptive to homosexuals and transgender people than Japanese students. Also, there was a big difference between attitudes toward male homosexuals and female homosexuals. Both male and female surveyees were tolerant toward female

homosexuals, but not toward male homosexuals. Surveys showed that males tend to be less tolerant, especially for homosexual men of the same sex. Also, Chinese male students were less tolerant to transgender people than homosexuals and bisexuals. There were more Chinese students than Japanese students who answered there were sexual minorities around them, and also, there were many cases in which they knew the LGBT' existence by their coming out. Chinese students answered that they could keep their friendship even after their friends coming out.

はじめに

筆者が、本調査を行うきっかけは、勤務する大学のLGBT学生サークルの支援活動において、中国からの留学生の悩みを聞いたことや、交換教員として中国の大学に赴任し、キャンパスの中で性的指向や性自認が非典型かもしれないと感じる学生によく遭遇したからである。そこで、中国の大学におけるLGBTの状況や学生の意識について知ることができる機会だと思い、調査を行うこととした。

今日、日本においては、多様な性を生きる人々の存在がメディアなどに登場し、社会的にその存在が周知されてきた。性的マイノリティの人は13人に1人という調査報告もあり¹⁾、数の多さから「性的マイノリティ」という言葉を用いることを疑問視する声もある。大学では、LGBTサークルが設立されたり、当事者団体が法整備に向けた社会運動を展開する中、国の施策においてもLGBTの人権問題が人権教育・啓発の課題として取り上げられるようになってきている²⁾。

日本と中国の大学生のLGBTに関する 意識についての試論的検討

一方、中国においては、1990年以降、同性愛者を中心とした当事者の集会やイベントなどが大都市で開かれるようになり、当事者団体が各地に誕生し、共同での取り組みや活動センターが設立され、社会の偏見・差別や国の規制などに対して多様な方法での当事者の権利を主張するような社会運動が展開されてきている³⁾。だが、その波は広範囲にわたる中国各地の大学までは及んでいない。

こうした状況の中で、LGBTに関する学生を対象とした意識調査もなされてきた⁴⁾。日本の先行調査ではLGBTに関するものがあるが、中国の調査では、トランスジェンダーについての意識調査はほとんどなく、同性愛に関する調査が中心である⁵⁾。ただし、本稿の「日本と中国の大学生のLGBTに関する意識調査」のような先行調査は文献検索でも見つけることができなかった。

本調査研究は、日本と中国の学生のLGBTに対する意識の特徴や相違点などを明らかにすることがねらいである。大学でのLGBTに対する偏見や差別を解消していくためには、まず、学生の意識について把握する必要があると思うからである。本稿では、日本と中国の学生のLGBTについての意識について明らかにするとともに、学生の意識形成と関連する入両国の社会・文化的背景についても考察していければと思う。

第1章 調査方法と調査結果

本調査報告は、日本の大学生と中国の大学生のLGBTに関する意識について比較検討したものである⁶⁾。

調査目的は、日本と中国の大学生のLGBTに関する意識について明らかにすることである。中国人学生への調査では、筆者が中国の外語大学に交換教員として赴任していた時に調査を実施した。

(1) 調査方法

調査方法	アンケート調査
調査対象	日本 北九州市立大学文学部の学生 中国 大連外語大学日本語学院の学生
調査期間	日本 2016年7月13日～7月31日 中国 6月27日～7月1日
調査票の 配布・回収	集合調査、日本では大学教員に調査を依頼、授業中に配布・回収 中国では、授業中の配布・回収を大学の職員に依頼

以下にアンケート票の配布数、回収率、有効回答数を示す。日本での有効回答数は347部、中国の有効回答数は295部であった。

アンケート票の配布数、回収率、有効回答数

	日本（北九州市立大学）	中国（大連外語大学）
配布数	380	320
回収数	352	298
回収率（%）	92.6	93.1
回答不備	5	3
有効回答数	347	295
有効回答率（%）	98.6	99.0

質問項目 日本のアンケートは14項目、中国のアンケートは13項目

項目	質問項目の数	内容
属性	1	性別(男性、女性、その他)
用語の認知	2	①性的マイノリティ ②ホモセクシュアル、②LGBT
用語の情報源	1	
LGBTについての意識	7	①LGBTだと知ったら変わりなく接するか ②同性愛(ゲイ、レズビアン)に関する受容の是非、③両性愛に関する受容の是非、④トランスジェンダーに関する受容の是非
セクシュアル・ハラスメント認知	1	LGBTに対する差別的言動との関連
セクシュアル・ハラスメント見聞体験	3	①見聞の是非、②場面、③具体的内容
LGBTと思える人の認知	5	①周りにいるか、②人数、③あなたとの関係、④どうして分かったか ⑤どのような人か（LGBT他）
LGBTに関する意見	1	自由記載

(アンケート用紙は本稿末尾に掲載)

(2) 調査結果

回答者の数と属性

対象大学別学生数、性別の割合は以下の表に示した。アンケート用紙の性別の選択肢は男性、女性、その他の3択にした。日本人学生は男性116名、女性228名、その他1名、性別記入2名、合計347名。

日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討

中国人学生は男性57名、女性237名、その他1名、合計295名である。

その他を選択したり、未記入にしているのには、自分の性自認について答えたくなかったり、トランスジェンダーやXジェンダー、インターセックス、クェスチョニングなどで、男女の性別に区別できない学生も含まれると推測する。性別の未記入2名のアンケート用紙を回答不備とするのではなく、意味あるメッセージとしてとらえ有効回答とした。

	男性	女性	その他	性別未記入	合計(人)
日本人学生	116	228	1	2	347
	33.4%	65.7%	0.3%	0.6%	100%
中国人学生	57	237	1	0	295
	19.3%	80.3%	0.3%	0%	100%

1. 性的マイノリティということばを知っているか

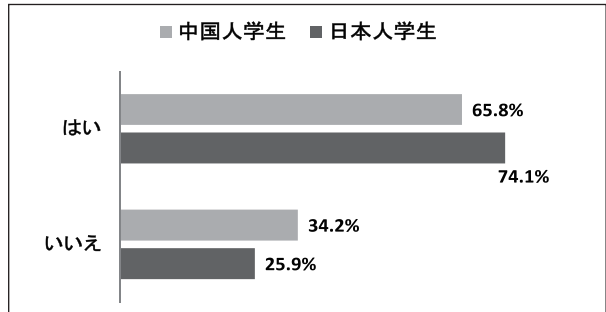
日本人学生の74.1%が知っている。中国人学生は65.8%が知っており、知っている割合が日本人学生に比べて8%ほど少ない。

表1 性的マイノリティということばを知っているか

	はい	いいえ	合計(人)
日本人学生	257	90	347
	74.1%	25.9%	100%
中国人学生	194	101	295
	65.8%	34.2%	100%

小数点第2位以下四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。表以下同様

図1 性的マイノリティということばを知っているか



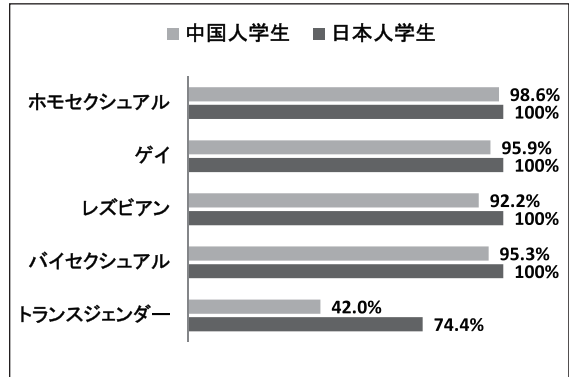
2. 知っていることばはどれか

知っていることばでは、日本人学生は、ホモセクシュアル、ゲイ、レズビアン、バイセクシュアルは100%の学生が知っているが、トランスジェンダーは74.4%と相対的に低くなっている。中国人学生は、ホモセクシュアルが98.6%とほぼ全員が知っている。ゲイ、レズビアン、バイセクシュアルは90%台であり、ほとんどが知っているが、トランスジェンダーは42.0%と半数以下の学生しか知らない。

表2 知っていることばはどれか（複数回答）

	ホモセクシュアル	ゲイ	レズビアン	バイセクシュアル	トランスジェンダー
日本人学生 n=347人	347	347	347	347	258
	100%	100%	100%	100%	74.4%
中国人学生 n=295人	291	283	272	281	124
	98.6%	95.9%	92.2%	95.3%	42.0%

図2 知っていることば



3. それらのことばをどこで知ったか

日本人学生は、①テレビ・映画・DVD、②インターネット、③学校、④友人との会話、⑤漫画、アニメ、⑥本・新聞・雑誌の順なのに対して、中国人学生は、①インターネット、②テレビ・映画・DVD、③友人との会話、④漫画・アニメ、⑤本・新聞・雑誌の順となっている。

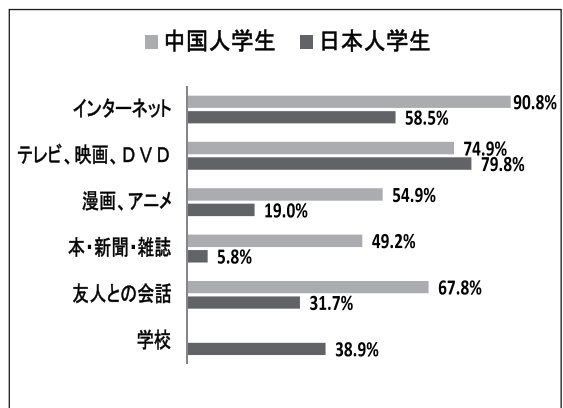
日本人学生と中国人学生の情報源を比較すると、中国では圧倒的にインターネットからの情報が多。中国人学生の友人との会話（67.8%）も日本人学生（31.7%）の2倍以上の割合である。日本人学生では、テレビ・映画・DVDからの情報が最も多いが、テレビに登場する性的マイノリティの影響だろうか。

表3 それらのことばをどこで知ったか（複数回答）

	インター ネット	テレビ、映画、 DVD	漫画、 アニメ	本・新聞 ・雑誌	友人との 会話	*学校
日本人学生 n=347	203	277	66	20	110	135
	58.5%	79.8%	19.0%	5.8%	31.7%	38.9%
中国人学生 n=295	268	221	162	145	200	
	90.8%	74.9%	54.9%	49.2%	67.8%	

* 中国のアンケート用紙では選択肢に学校を入れていない。

図3 それらのことばをどこで知ったか（複数回答）



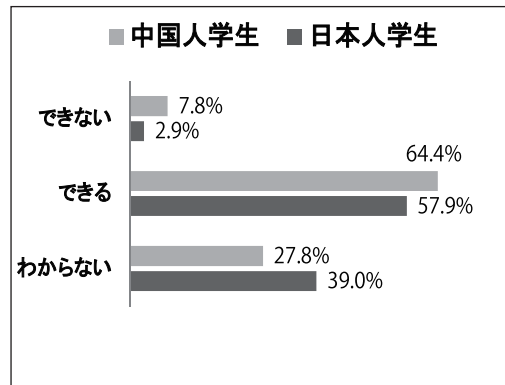
4. 友人が性的マイノリティだったとしたら変わりなく接することができるか

日本人学生は、できるが57.9%に対して、中国人学生は64.4%であり、中国人学生の割合が若干多い。両国の学生は、およそ10人のうち6人は「できる」ということになる。一方、「できない」は日本人学生が2.9%に対して、中国人学生は7.8%である。「わからない」については日本人学生39.2%に対して、中国人学生は27.8%であり、10人のうち日本人学生は約4人、中国人学生は約3人が「わからない」と答えていることになり、その割合は少くない。

表4-1 友人が性的マイノリティだったとしたら
変わりなく接することができるか

	できない	できる	わからない	合計(人)
日本人学生	10 2.9%	201 57.9%	136 39.2%	347 100%
中国人学生	23 7.8%	190 64.4%	82 27.8%	295 100%

図4 友人が性的マイノリティだったとしたら
変わりなく接することができるか



●選択の理由について（自由記載）

「できない」「できる」「判断できない」の3つの選択の理由を日本人学生の自由記載（表4-2）と中国人学生の自由記載（表4-3）に整理した。

【日本人学生】

「できない」ではその理由を書いている人は1名で、「できる」と回答した人は性的マイノリティであっても「友人が変わらない」「性格が変わるわけではない」、「LGBTの友人がいる」や「LGBTと出会ってきた」、「個性だから」という理由、「わからない」と回答した人の割合は約4割と少なくなかったが、その理由は、「経験がない」、「出会ったことがない」、「想像できない」、「自分への影響を懸念」、「恋愛対象になると困る」などであった。

【中国人学生】

「できない」では、「普通ではない、変だ」、「付き合えない」という理由が、「できる」では、「個人の尊重」、「恋愛の尊重」、「選択の自由と権利」があるという理由や、「差別・偏見はいけない」、「友人に変わりはない」、「友人にいる」、「多くいる」、「当事者としての経験」（自分はバイセクシュアルだが、友人関係は何も変わらないだろう）という理由があげられた。また、「わからない」では、「うけいれられない」、「場合によって違う」、「自分への影響を懸念」（自分もそうなるかもしれない）などの理由があげられていた。

表 4 - 2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
できない	考慮して行動	「よくも、悪くもそのことを考慮して行動すると思う。」
できる	友人に変わりはない 性格が変わるわけではない	「それまで、友人としてつきあってきたため、何も変わらない。」「性的マイノリティがどうよりも、友人がどう思っているかのほうが友人関係で大切だから」「その人にならないから」「性格が変わるわけではないから」「誰を好きになっても、友人であることに変わりがないから」「別に友達のそういうところを気にしてつきあっているわけではない」
	LGBTの友人がいる LGBTと出会ってきた	「今までも、ゲイ、バイの友人に多く出会ってきたため」「実際に外国で知り合った友人がレズビアンだったけど、特に変わりなく接することができたと思う」「LGBTの友人がいる」「高校の時に性的マイノリティの友達が実際にいたから」「実際にそういう人と付き合っているし、当人の人格に何ら変わりはないから。」「むしろ、秘密を打ち明けてもらってうれしい」
	個性だから	「個性だと思えるから」
わからない	経験がない 出会ったことがない 想像できない	「想像しにくいから」「性的マイノリティの友人にまだ出会ったことがないから」「いないから」「想像できないが、仮に最初から、わかっていたら普通に接する」「想像しにくいから」
	自分への影響を懸念 恋愛対象になると困る	「それによって自分に対する態度が変化すれば、自分の態度も変わると思う」 「女の友達が女の人のことを好きなのは自分に近すぎてどんな感情を持つかわからないから」「ゲイの子は問題なくなく仲が良いが、レズの子でもし好かれたらさけてしまうかもしれないから。そうじゃないなら、たぶん仲良しのままだと思う。」

表 4 - 3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
できない	普通ではない、変だ	「変だと思う」「普通ではない」「気持ち悪くて仕方がない」
	付き合えない	「事情があるから昔のように付き合えない」

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

できる	個人の尊重 恋愛の尊重 選択の自由と権利	「愛さえあればいい」「人を好きになること、愛することは悪いことではない」 「性的指向は生まれつきだから」「愛とは何も条件など関係なく、尊重されるべき」「人々は独立して個々の価値を持っている。」「彼らは恋愛面で私たちと違うだけで、普通の人だから、もちろん選択の権利がある」
	差別・偏見はいけない	「勝手に他人を批判してはいけない」「その人の性的指向で、その人の品格を判断してはいけない」「差別・偏見を持たれる理由がない」
	友人に変わりはない 友人にいます。多くいます。	「永遠に友だから」「友人だからいつでも支える」「人だから何も変わらない」「気にしない」「友人の中で結構いる」
	当事者としての経験	「自分はバイセクシュアルだが、友人関係は何も変わらないだろう」
わからない	受け入れられない 場合によって違う	「受け入れられないけど、理解、尊重する」「場合によって違う」「意味わからない」
	自分への影響を懸念	「影響されたら自分もそうなるかも」「自分もそうなるかもしれないことを心配する」「他人の自由だが、自分の生活に影響しなければいい」

5. 男性同士が手をつないでいるのを見てどう思うか

日本人学生は「気持ちが悪い」と答えた日本人学生は13.8%、中国人学生は32.5%であり、約19%の開きがある。この割合は日本人学生では約7人に1人、中国人学生では約3人に1人という割合である。また、「気持ちが悪いと思わない」は日本人学生が52.7%、中国人学生は46.8%であり、両国の学生は全体の50%前後が「受容的」である。

表5-1 男性同士が手をつないでいるのを見てどう思うか

	気持ちが悪い	気持ちが悪いと思わない	わからない	合計(人)
日本人学生	48	183	116	347
	13.8%	52.7%	33.4%	100%
中国人学生	96	138	61	295
	32.5%	46.8%	20.7%	100%

●選択の理由について（自由記載）

【日本人学生】

「気持ちが悪い」と回答した人の理由では、「違和感がある」「女性同士の方が抵抗がない」という理由が見られた。「気持ちが悪いと思わない」では、「愛情表現は多様」、「自分も経験ある」、「よく見る」、「たくさんいる」や「普通」、「正常」という理由に整理できた。「わからない」では、「見たことがない」、「違和感がある」という理由があった。同じ「違和感がある」という理由でも、「気持ちが悪い」に選択している回答者もいるので、日本人の性格としてネガティブな回答を避ける傾向が出ていると思った。

【中国人学生】

「気持ちが悪い」と回答した人は、「普通ではない」、「変だ」、「男は男らしくすべき」、「女ならいい」という理由が記されていた。「気持ちが悪いとは思わない」では、「選択の自由」、「愛情表現」、「友情の表現」、「普通」、「正常」というような理由が、「わからない」では、「経験がない」という理由があげられていた。

表5-2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
気持ちが悪い	違和感がある、女性同士の方が抵抗がない	「同性として違和感がある」（女性同士の場合は“華があるからおかしくない”と回答）
気持ちが悪いと思わない	愛情表現は多様 自分も経験ある	「人の愛は、それぞれ形が違うから気にならない」「仲好いんだなあと思わない」「好き同同士でつないでいるなら問題ない」「自分もふざけて手をつなぐことがある」
	よく見る たくさんいる	「テレビや海外でよく見かける」「海外生活で見慣れたから」「二人の雰囲気による」「ルー・ヴェイ・ミルクの映画でそのような場面を見た時は驚いた」
	普通、正常	「気持ち悪いと思う方が変」「外国の映画、ドラマでは普通だから」
わからない	見たことがない	「見たことがない」「実際に見たことないから自分がどう思うかわからない」
	違和感がある	「違和感があるが、しょうがないと思う」

表5-3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
気持ちが悪い	普通ではない 変だ	「変だ」「普通ではない」「気持ち悪くてしかたがない」「親しすぎると変になる」「怪しい」「嫌い」
	男は男らしくすべき 女ならいい	「男は男らしくすべきだ」「女ならいいけど男なら認めない」「女っぽい、女らしいけど、なんかみつけたらドキっとする」

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

気持ちが悪いと思わない	選択の自由	「その人の選択と好みだ」「他人の自由」「恋愛はみんな平等だ」「そうした、誰にも関係ないだろう」「個々の自由だ」「別に恋愛してもおかしくない」
	他人と関係ない	
	愛情表現	「自然の愛情行為、愛情の表現」「めっちゃ愛だ!」「愛情だ」
	友情の表現	「多分友達だろう」「遊びなら大丈夫」
わからない	普通、正常	「手をつなぐのは普通だが、キスをすれば愛だ」「別に恋愛してもおかしくない」「正常」「普通の男同士なら気持ちが悪いが、ゲイなら普通だ」
	経験がない	「経験ない、わからない」
	その他	「人によって意見は違うと思う」

6. 女性同士が手をつないでいるのを見てどう思うか。

日本人学生では、「気持ちが悪い」は2.9%、中国人学生は2.0%と、100人にすれば、2～3人の割合で、いずれも少数である。一方、「気持ちが悪いと思わない」は、日本人学生は79.8%、中国人学生は90.8%と10%以上中国の方が多し。「わからない」は日本人学生では17.3%、中国人学生は7.1%であり、日本人学生の方が10%ほどその割合が多い。

表6-1 女性同士が手をつないでいるのを見てどう思うか

	気持ちが悪い	気持ちが悪いと思わない	わからない	合計(人)
日本人学生	10	277	60	347
	2.9%	79.8%	17.3%	100%
中国人学生	6	268	21	295
	2.0%	90.8%	7.1%	100%

●選択の理由について（自由記載）

【日本人学生】

「気持ちが悪い」の回答者では理由は記載なし。「気持ちが悪いと思わない」では、「友情の表現」、「よく見る」、「たくさんいる」、「普通」、「正常」、「女性の方が抵抗ない」などの理由があった。「わからない」では、「場合による」という理由があげられていた。

【中国人学生】

「気持ちが悪い」では、「振る舞い」（親しすぎ）という理由、「気持ちが悪いと思わない」では、「選択の自由」、「他人と関係ない」、「見慣れている」、「多くいる」、「友情の表現」、「普通」、「正常」というような理由、「わからない」では、「経験ない」という理由があげられていた。

表6-2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
気持ちが悪い		記載なし
気持ちが悪い と思わない	友情の表現	「普段ともだちどうしてもよくするから。」「レズビアンでなくても手をつなぐ人はたくさんいるから」「たまに中高生でも手を繋いでいる人がいるから」「まわりの友達も繋いでいるけど、何も思わないから」
	よく見る たくさんいる	「海外生活で見慣れたから」「テレビで見たことがある」「よく見かけるし、今も、私も手をつなぐことがあるから、要は見慣れているか、そうではないか、という環境にあるか、ないかだと思う」
	普通、正常	「気持ち悪いと思う方が変」
	女性の方が抵抗ない	「男同士よりも抵抗は感じないが、やはり変だと思う」「異性の方が受け入れられやすい(男性)」
わからない	場合による	「時と場合による」

表6-3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
気持ちが悪い	振る舞い	「親しすぎだ」
気持ちが悪いと 思わない	選択の自由	「他人の自由」「その人の選択だから他人と関係ない」
	他人と関係ない	
	見慣れている、多くいる	「みんなそうする」
	友情の表現	「友情の表現」「仲が良い」「友情の表現、気持ちが悪いと思うのは その人自身の問題」「女の子は親しい行為が好きだから」「女同士一緒にお手洗い行くこともある」「めっちゃ愛だ」
普通、正常	「女性間では普通だ」「正常」「女同士より男同士の方が気持ち悪いと思う」	
わからない	経験ない	「経験ない、かわらない」

7. 男性が男性に恋愛感情を抱くのをどう思うか

日本人学生では、男性が男性に恋愛感情を抱くのを「おかしい」と答えた人が3.8%であり、中国人学生では19.7%であり、中国人学生の方が「おかしい」と思う割合が16%ほど多い。また、「わからない」では、日本人学生は23.5%、中国人学生は11.5%であり、日本人学生の方が12%ほど多い。

日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討

表7-1 男性が男性に恋愛感情を抱くのをどう思うか

	おかしい	おかしくない	わからない	合計(人)
日本人学生	13	253	81	347
	3.7%	72.9%	23.3%	100%
中国人学生	58	203	34	295
	19.7%	68.8%	11.5%	100%

●選択の理由について（自由記載）

【日本人学生】

「おかしい」では、「正常ではない」という理由、「おかしくない」では、「現実だから」、「感情から」（自分にその感情がないから）、「性別に関係なく愛する権利がある」（本当に好きならおかしくない）「自然なこと、性別が同じだけ」、「よく見る」、「当事者のことを想像」、「男性の方が男性のことを理解してくれるわけだが、恋愛感情まで発展するものか」という理由、「わからない」では、「場合による」、「出会ったことがない」という理由があげられていた。

【中国人学生】

「おかしい」では、「普通ではない」「病気」（心理的問題）「自分の価値観」（自分は絶対にそうしないから）（男女それぞれの役割があるので）という理由、「おかしくない」では、「選択の自由」、「他人は関係ない」、「見慣れている」、「認めている国がある」、「性別は関係ない」、「自然の欲求」、「普通」、「正常」、「社会発展に伴い人の意識も変化する」、「自分の経験から」（男性に告白されたことがあるけど、今は友達）などの理由が、「わからない」では、「理解できない」などという理由があげられた。

表7-2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい	正常ではない	「正常ではないと思うから」
おかしくない	現実だから	「生物学上一定の割合で生まれると聞いたから」
	自分の感情から	「自分にその感情がないから」 「正常ではないかもしれないが、嫌悪感などはない」
	性別に関係なく愛する権利がある	「本当に好きならおかしくない」 「自然なこと、性別が同じだけ」 「誰でも愛する権利はあると思う」
	よく見る	「海外生活で見慣れたから」 「本なのでよく見るので」
	当事者のことを想像	「そんなこともあるのかなーと思うから」 「男性の方が男性のことを理解してくれるわけだけど、恋愛感情まで発展するものかと」
わからない	場合による	「時と場合による」
	出会ったことがない	「そういう人に出会ったことがないから」

表 7-3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい	普通ではない	「変だ」「理由ないけど、おかしい」「怪しすぎ」「男プラス女の方は普通だ」
	自分の価値観	「自分は納得できない」「認めない」「自分は絶対にそうしないから」「たぶん自分の考えが古いかも」「男女それぞれの役割があるので」
	病気	「心理的問題」
おかしくない	選択の自由 他人は関係ない	「自由恋愛だ」「二人のことだから、他人に関係ない」「その人の選択だから他人に関係ない」「好きな人を選ぶのは権利だから」「誰を好きになるかは個人の自由だ。ただその人は同性というだけだ。」「自由に選択する権利はだれにもある」
	見慣れている 認めている国もある	「昔より、現在はこんなことはよく見る」「世界で同性婚を認めている国も少なくない」
	性別は関係ない 自然の欲求	「愛と性別関係ない」「自分でコントロールできないだろう」「ただ好きになった人が男性であっただけ」「自然なことだからいいじゃないですか」
	普通 正常	「普通だ」「正常」「一部は生まれつきで、もう一部は環境に影響される結果だけど、普通だ」「普通の現象だ。異性間だけで愛が生まれるわけがない」「なぜ異性愛が正しいと考えるの?」「愛は二つの心が好き同士になることだ。少ないけどおかしくない。」
	社会発展に伴い人の意識 も変化する	「物質世界が発展すると共に人はもっと心の世界を探索していくから、未来に同性愛が理解されるかも」「社会が発展するとともに、人の意識も変わっていく」
	自分の経験から	「男性に告白されたことがあるけど、今は友達」
わからない	理解できない	「理解できない」
	容姿で異なる	「いい顔ならいい」

8. 女性が女性に恋愛感情を抱くのをどう思うか

女性が女性に恋愛感情を抱くことに対して、日本人学生は、「おかしい」が、全体の3.4%だったのに対して、中国人学生は19.3%であり、日本人学生より16%ほど、その割合が多い。「おかしくない」

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

は日本人学生では72.6%、中国人学生は68.1%と大差はない。「わからない」では、日本人学生は23.9%なのに対して、中国人学生は12.5%であり、日本人学生の方が中国人学生に比べて11%ほど「わからない」の割合が多い。

表8-1 女性が女性に恋愛感情を抱くのをどう思うか

	おかしい	おかしくない	わからない	合計(人)
日本人学生	12	252	83	347
	3.4%	72.6%	23.9%	100%
中国人学生	57	201	37	295
	19.3%	68.1%	12.5%	100%

●選択の理由について（自由記載）

【日本人】

「おかしい」を選択した人は12人いたが理由を記した人はいない。「おかしくない」を選択した人の理由は、「現実」（現実にそのような人がいるから）、「人間のニーズ」（生理現象だから）、「性的指向」だから、「よく見る」から、「わからない」では、「経験がない」、「出会ったことがない」「理解できない」、「要因が気になる」（なぜ、そうなったのか生い立ちとか）などの理由があげられていた。

【中国人】

「おかしい」では、「普通ではない」、「自分の性的指向から」（男性の方が好きだから）、「病気」だからという理由が、「おかしくない」では、「差別はいけない」、「性的指向」、「自己決定の尊重」、「見慣れている」（中学校のクラスで何人もいた）（まわりに男が少なければ普通だ）、「わからない」では、「体験がない」、「見たことがない」などの理由があげられていた。

表8-2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい		記載なし
おかしくない	現実、人間のニーズ	「現実にそのような人がいるから」「生理現象」
	性的指向	「好みの問題だから」「本当に好きならおかしくない」
	よく見る	「本などでよく見るので、いわゆる“女子高ノリ”をよく聞くから」
わからない	経験がない	「そういう人に出会ったことがないから」「自分がそういう思いを抱いたことがないから」
	出会ったことがない	
	理解できない	「理解できないから」「女性が男性のことを理解してくれるわけだけど、恋愛感情まで発展するものかと」
	要因が気になる	「おかしいと思わないが、なぜそうなったのか気になる。生い立ちとか」

表 8-3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい	普通ではない 自分の性的指向から	「男プラス女の方は普通だろう。たぶん自分の考えが古いかも」 「男の方が好きだから」「男性の方がいいじゃない」
	病気	「怪しいと思う」「病気」
おかしくない	差別はいけない	「差別ない、尊重する」
	選択の自由、自己決定の 尊重	「自然なことだから、いいんじゃないか」「自分の意思があるものだから」 「その人の選択だから他人と関係ない」
	見慣れている	「中学校のクラスメートで何人もいた」
	性別は関係ない	「愛は性別を乗り越える」「自由の愛、性別と関係ない」
	普通	「愛は自由だ。まわりに男が少なければ、もちろんこれが普通だ」
わからない	体験がない、見たことが ない	「体験がない」「見たことがない」

9. 男女両方に恋愛感情を抱くことをどう思うか

男女両方に恋愛感情を抱くことに対して、日本人学生では、「おかしい」が4.3%なのに対して、中国人学生は19.0%と15%ほど、「おかしい」と思う割合が多い。反対に「おかしくない」は日本人学生72.9%なのに対して中国人学生は74.2%と「おかしくない」と思う割合は大差がない。また、「わからない」では、日本人学生が22.8%であるのに対して、中国人学生は6.8%と、日本人学生の方が16%ほど、その割合が多い。

表 9-1 男女両方に恋愛感情を抱くことをどう思うか

	おかしい	おかしくない	わからない	合計(人)
日本人学生	15	253	79	347
	4.3%	72.9%	22.8%	100%
中国人学生	56	219	20	295
	19.0%	74.2%	6.8%	100%

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

●選択の理由について

【日本人】

「おかしい」では、理由を記載した回答者はいない。「おかしくない」では、「現実だから」(現実そのような人がいるから)、「選択の自由」「自己決定の尊重」、「多様性の尊重」、「自分の経験から」(自分が付き合っている人がそうだから)、「有利」(恋愛対象が男性も女性もだと、両方の機会がもてるので、有利なのは)、「すばらしい」という理由、「わからない」では「出会ったことがない」、「不思議」(恋愛感情とただ人となりが好きなのとは違いはあるのかな)などという理由があった。

【中国人】

「おかしい」では、「普通ではない」、「精神的におかしい」、「病気である」、「理解できない」という理由、「おかしくない」では、「当事者の立場にたって」(その人自身もつらいだろう)、「選択の自由」、「自己決定の尊重」、「見慣れている」、「多くいる」、「自分も経験がある」(自分はそうだよ)、「自分も欲求がある」(自分もそうなるかもしれない)(自分もそうしたい)、「性別は関係ない」、「普通」、「正常」という理由、「わからない」では、「疑問」(なぜ、そこまできるとかわからない)という理由があげられていた。

表9-2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい		記載なし
おかしくない	現実だから	「現実そのような人がいるから」
	選択の自由、自己決定の尊重、多様性の尊重	「好きになる性別は多様であるから」「人を好きになるのはその人の自由だから」「両方が好きならそれでいいと思う」「おかしくないと思うけど、それは“人間を愛している”と言うのとの区別が難しいと思う」「いろいろな形があると思う」
	自分の経験から	「自分が付き合っている人がそうだから」
	有利、すばらしい	「私なストレートだが、恋愛対象が男性も女性もだと、両方の機会がもてるので、有利なのは」「すばらしいことではないか」
わからない	出会ったことがない	「そういう人に出会ったことがないから」「そういう人もいるという認識」
	分らない、不思議	「恋愛感情とただ人となりが好きなのとは違いはあるのかなと、感情が希薄な人は?」「おかしいと思わないけど、不思議に感じるから」「あこがれじゃなくて、恋愛感情を男女両方にもてることがあるんだと思うから」

表9-3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい	普通ではない	「普通ではない」
	精神的におかしい 病気である	「男か女か、どっちかにすべきだ」「怪しいと思いますが、そんな人がたくさんいるらしいです」「精神的な病気だろう」「なぜ、どっちも愛するの？」
	理解できない	「自分は理解できないから」
おかしくない	当事者の立場にたって	「その人自身もつらいだろう」「多分心が傷つけられたからかな」
	選択の自由、自己決定の 尊重	「自分に合えばよい」「どっちも好きで、自分の気持ちに正直に生きることだから、おかしくない」「その人の選択だから他人と関係ない」「女性だからおかしくない」
	見慣れている、多くいる	「そういう人が結構いる」「ある学者は、ほとんどの人はそうだと行った」
	自分も経験がある 自分も欲求がある	「自分はそうだよ」「受け入れられないことではない。自分もそうなるかもしれない」「自分もそうしたい」「自分も男女の両方を好きになる。だから普通」
	性別は関係ない	「好きなのはその人自身が好きなので性別ではない」「性的指向が違うだけ」「どっちでもいい、男女の関係なく好きだけでいい」
	普通、正常	「普通だ」「正常」
わからない	疑問	「なぜそこまでできるのかが分からない」「男女によって観点も違うだろう」「あまりわからない」

10. 身体の性と反対の性別を生きる人たちのことをどう思うか。例えば、男性（女性）として生まれたのに女性（男性）として生きる人について

身体の性（戸籍上）の性と反対の性別を生きる人たちについて、「おかしい」と思う日本人学生は、1.4%なのに対して、中国人学生は25.8%と、24%の開きがある。「おかしくない」では、日本人学生は83.0%なのに対して、中国人学生は57.3%であり、約26%その割合は低い。「わからない」では、日本人学生は15.6%なのに対して、中国人学生は16.9%とあまり違いはない。

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

表10-1 身体の性と反対の性別を生きる人たちのことをどう思うか

	おかしい	おかしくない	わからない	合計(人)
日本人学生	5	288	54	347
	1.4%	83.0%	15.6%	100%
中国人学生	76	169	50	295
	25.8%	57.3%	16.9%	100%

●選択の理由について（自由記載）

【日本人】

「おかしい」では、「社会制度に反する」（戸籍に反するから）、「おかしくない」では、「見慣れた」（芸能人にいるから慣れた）などや、「一般的」（テレビやメディアなどでよく見かけるため）、「普通にいる」、「生まれつきだから」「選択の自由」、「当事者の気持ちを尊重」、「“男らしさ、女らしさ”は関係ない」（見た目が女だから、女らしく生きるべきだという決まりはないから）「自分らしく生きている」、「正直だ」、「友人にいる」（友達にいるが強く生きているし、そこら辺の人々より尊敬）、「個性である」、「障害だから」、「当事者を想像して」（その人自身が一番苦しいのに、それをおかしいとは思えない）（両方の性から幅広い視点を持っていてすごいと思う）などの理由があった。また、「わからない」では、「経験がない」、「他人のこと」、「関係ない」などという理由があげられていた。

【中国人】

「おかしい」では「命は親がくれたもの」、「生まれつきだから変えられない」「精神的におかしい」「迷惑になる」という理由が、「おかしくない」は、「迷惑をかけなければいい」、「選択の自由」、「自己決定の尊重」、「生きていく権利がある」、「要因がある」、「不平等」（少数が多数に従うというのは、何か不公平だ）「前進すべき」（人類の意識は前進すべきだ）、「見慣れている」などの理由、「わからない」では、「他人のこと、関係ない」、「当事者を想像して」（あまりわからないけど、いろいろな抑圧があり、つらいだろう）などという理由があげられていた。

表10-2 日本人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい	社会制度に反する	「戸籍に反するから」
おかしくない	見慣れた、一般的 普通にいる	「見慣れたため」「テレビやメディアなどでよく見かけるため、一般的になってきつつある」「オカマなどが世間に容認されているから」「マツコとか、クリス松村とか、ミッツマングローブとか芸能人にいるから、慣れたし、知っていておかしいとは思わない」「芸能人で普通にいるから」
	生まれつきだから	「生まれてきたことに変わりがないから」「そう生まれてきたから」「生まれながらのものなので、おかしくない」「自分では選べないから」「性別は自ら

おかしくない		決めることができないから
	選択の自由 当事者の気持ちを尊重	「LGBTの人の気持ちはその人たちにしかわからないし、私がどう、こうではないと思う」「どうしても、男だが、女としていきたいのなら、それでいいのではないか」「自分の生きたいように生きればいい」
	“男らしさ、女らしさ” は関係ない、自分らしく 生きている、正直だ	「見た目が女だから、女らしく生きるべきだという決まりはないから、その逆も」「自分の気持ちをごまかすことなく生きているから」「何がおかしいのかわかりません。自分に正直で素晴らしいと思う」
	友人にいます	「友達にいますが、強く生きているし、そこら辺の人々より尊敬する」
	個性である	「個性だと思えるから」「一つの個性として受け入れていきたい」
	障害だから	「障害だから仕方がない」
	当事者を想像して	「その人自身が一番苦しいのに、それをおかしいとは思えない」「どっちの(男女)の感情も理解できていいと思う」「両方の性から幅広い視点を持っていてすごいと思う」
わからない	経験がない	「知らない」「出会ったことがない」
	他人のこと、関係ない	「個人のことだから、知りたくない」「他のひとの選択ですが、彼らたちについてどう考えるか分からない」
	その他	「何を基準にしておかしいとするのか不明瞭」「受け入れるならそれでいいと思う。苦しいと思うけど」「機能として受け入れなければならないと思う」「周囲の理解が得られるか分からないので」

表10-3 中国人学生の自由記載

選択肢	理由の分類	具体的内容
おかしい	命は親がくれたもの 生まれつきだから変えら れない	「性が変わるのは認められない。」「命は親がくれたものだから、大切にしないさい」「性別は生まれつきなので勝手に変えることはできない」「生まれたままの自分にすべきだ」「性別の通りに生きていくべきだ」
	精神的におかしい	「精神的におかしい」「なぜ、こうなる？」
	迷惑になる	「他の人の邪魔になる」
おかしくない	迷惑をかけなければいい	「他人に迷惑をかけなければそれでいい」

日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討

	選択の自由、自己決定の尊重	「自分で自分の生き方を選ぶべきだ」「好きならいい」「誰でも自分の生活の仕方を選ぶ権利がある。批判される理由がない」「性別と全く逆の生活の仕方をしているのも、その人の好みだ」「その人の生き方を尊重する」「精神的に男性が女性の体に縛られて生きるのは不幸だから、好きに生きていくべき」「人はそれぞれの生き方がある。尊重すべきだ」
	生きていく権利がある	「誰でも、生きていく権利がある」
	要因がある	「家庭や経歴に関係があると思う」
	不平等、前進すべき	「少数が多数に従うというのは、何か不公平だ」「人類の意識は前進すべきだ」「彼らは何も悪くない」
	見慣れている	「映画でよく見た」
わからない	他人のこと、関係ない	「他人の事だから、自分と関係ない」
	当事者を想像して	「あまりわからないけど、いろいろな抑圧があり、つらいだろう」「心と体が違う性というのは想像しづらい」

●質問（４～１０）を通して一日本人学生と中国人学生の比較

アンケートの回答の選択肢は３択で、質問４は①「できない」②「できる」③「わからない」、質問５・６は①「気持ちが悪い」②「気持ちが悪くない」③「わからない」。質問７・８・９・１０は①「おかしい」②「おかしくない」③「わからない」である。評価において、相対的な基準で①「非受容的」②は「受容的」、③は「判断できない」とした。

（１）学生全体での特徴

【共通点】

質問（４～１０）の中で、質問５（男性同士が手をつなぐ）が日本人学生と同様に中国人学生においても、「非受容的」な割合が最も多い。一方、質問（４～１０）の中で、質問６（女性同士が手をつなぐ）が日本人学生と中国人学生に「受容的」な割合が最も多くなっている。また、「判断できない」は、質問（４～１０）の中で「受容的」な割合が多く、「非受容的」な割合が少ない場合にその割合は少なくなっている。具体的には日本人学生においては質問６・１０、中国人学生においては質問６にそのことが顕著に示されている。

【相違点】

中国人学生では「非受容的」の割合が日本人学生よりも多い。「受容的」な割合は、日本人学生と中国人学生の差が大きいのは質問１０（性別違和）（25.7%）、質問６（女性同士が手をつなぐ）（11.0%）であり、それらを除くと、あまり大差（1.3%～6.5%）はない。「非受容的」な数値の方が両者の差異が目立つ。質問４（4.9%）、質問６（0.9%）を除くと、質問５（18.7%）、質問７（16.0%）、質問８

(15.9%)、質問9 (14.7%)、質問10 (24.4%) において約15%以上の差異があるからである。日本人学生が中国人学生と比べて「非受容的」な割合が少ないのは、日本人学生が「非受容的」のかわりに、「判断できない」を選択しているからだと考える。ちなみに、質問10 (性別違和) を除くと、日本人学生の「判断できない」の割合は、ほとんどの質問で中国人学生よりも多い。

質問 (4~10) を通してみると、中国人学生の「非受容的」な割合が一番多いのは、質問5 (男性同士が手をつなぐ) である。中国人学生 (約33%)、日本人学生 (約14%) と開きがある。また、日本人学生では、質問10 (性別違和) が最も「受容的」な割合が多い。それは、「判断できない」割合が比較的少なく、明確に判断しているからだと考える。一方、中国人学生の「非受容的」な割合は、質問10 (性別違和) が質問6 (男性同士が手をつなぐ) に次いで多い。このように質問10 (性別違和) では、「受容的」は日本人学生は80%台だが、中国では50%台と開きがある。これは、中国人学生の「判断できない」(15.7%) という割合が比較的多いことから性別違和への理解不足が関係していると推測される。

図4-1 日本人学生の意識

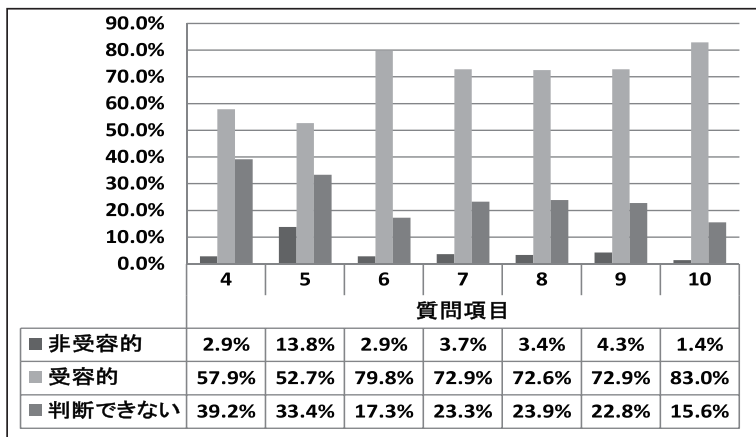
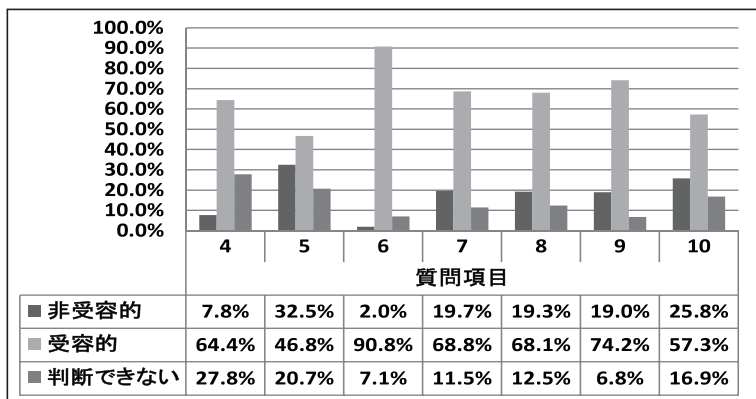


図4-2 中国人学生の意識



日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

(2) 性別による特徴

【共通点】

日本人学生と中国人学生では、質問（4～10）のほとんどで女性は男性に比べて「受容的」な割合が多く、反対に「非受容的」な割合が少ない。反対に男性は、多くの質問で女性に比べて「非受容的」な割合が多く、「受容的」も割合が少ないことが共通している。

日本人学生も中国人学生も男性は、質問5（男性同士が手をつなぐ）が最も「非受容的」な割合が多く、次いで、質問7（男性が男性に恋愛感情をもつ）が多いことが共通している。また、「男性同士」の関係（手をつなぐ、恋愛感情を抱く）よりも、「女性同士」の関係（手をつなぐ、恋愛感情を抱く）について「受容的」な割合が多いことが共通している。

【相違点】

日本人学生においては、「受容的」な割合は男性と女性では質問（4～10）において、差（約1%～6%の差）はあまりないが、中国人学生では、質問5（約17%）、質問7（約22%）、質問9（約20%）と、性別による差が大きいためである。特に、男性は同性である男性同士の関係（手をつなぐ、恋愛感情を抱く）に対して「非受容的」であるのに対して、女性は同性である女性同士の関係に対して「受容的」である。

表11-1 日本人学生の性別による意識の違い

質問項目	性別	判断できない		受容的		非受容的	
		人数	%	人数	%	人数	%
4	男性	45	38.8%	65	56.0%	6	5.2%
	女性	87	38.2%	137	60.1%	41	1.8%
5	男性	34	29.3%	60	51.7%	22	19.0%
	女性	82	36.0%	120	53.1%	25	11.0%
6	男性	18	15.5%	94	81.0%	4	3.4%
	女性	42	18.5%	180	79.3%	5	2.2%
7	男性	25	21.7%	82	71.3%	87	7.0%
	女性	56	24.6%	168	73.7%	41	1.8%
8	男性	27	23.5%	83	71.3%	65	5.2%
	女性	56	24.6%	167	73.3%	5	2.2%
9	男性	29	25.2%	79	68.7%	7	6.1%
	女性	50	21.9%	171	75.0%	7	3.1%
10	男性	22	19.0%	93	80.2%	1	0.9%
	女性	32	14.0%	193	84.6%	3	1.3%

図4-3 日本人学生の性別による意識の違い

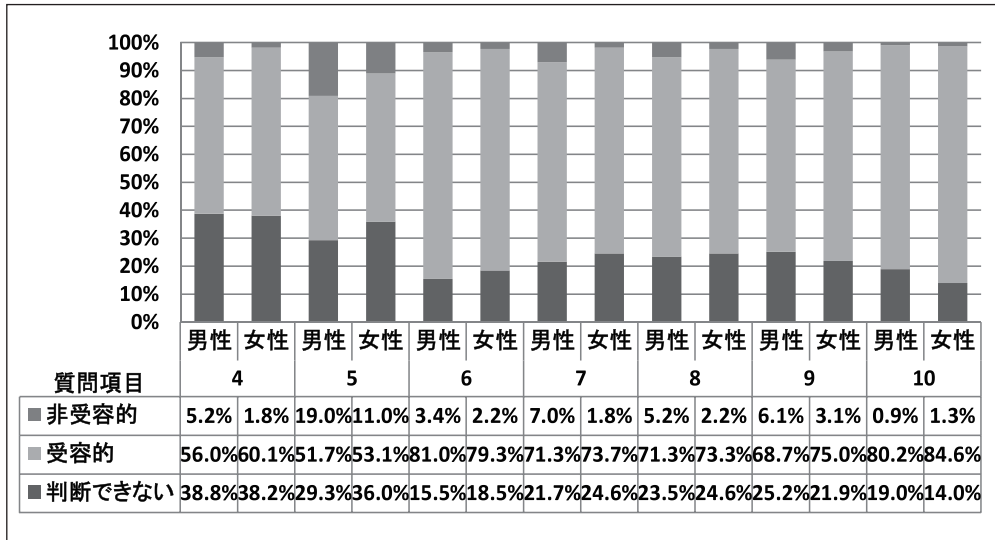
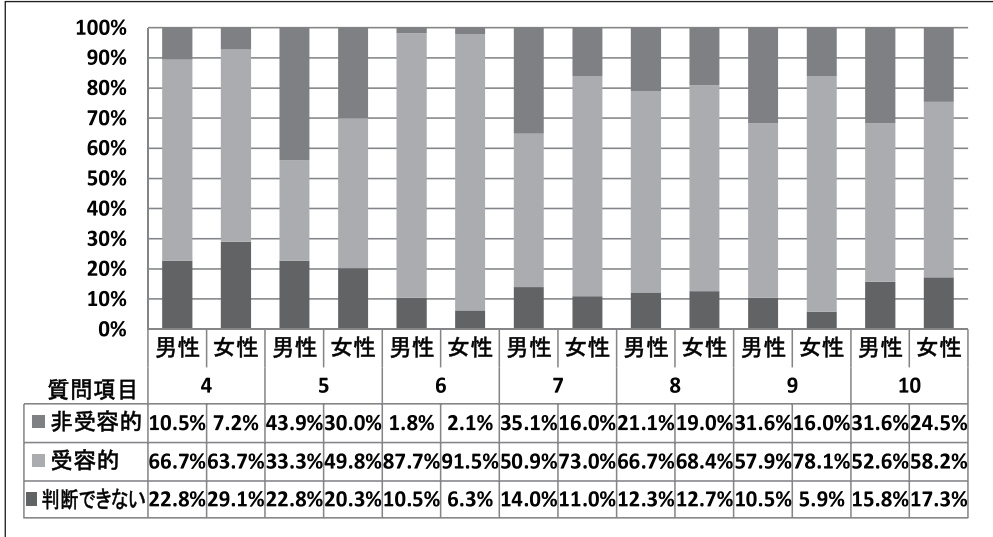


表11-2 中国人学生の性別による意識の違い

質問項目	性別	判断できない		受容的		非受容的	
		人数	%	人数	%	人数	%
4	男性	13	22.8%	38	66.7%	6	10.5%
	女性	69	29.1%	152	63.7%	17	7.2%
5	男性	13	22.8%	19	33.3%	25	43.9%
	女性	48	20.3%	119	49.8%	71	30.0%
6	男性	6	10.5%	50	87.7%	1	1.8%
	女性	15	6.3%	217	91.5%	5	2.1%
7	男性	8	14.0%	29	50.9%	20	35.1%
	女性	26	11.0%	173	73.0%	38	16.0%
8	男性	7	12.3%	38	66.7%	12	21.1%
	女性	30	12.7%	162	68.4%	45	19.0%
9	男性	6	10.5%	33	57.9%	18	31.6%
	女性	14	5.9%	185	78.1%	38	16.0%
10	男性	9	15.8%	30	52.6%	18	31.6%
	女性	41	17.3%	138	58.2%	58	24.5%

日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討

図4-4 中国人学生の性別による意識の違い



11. 同性愛や性同一性障害など性的マイノリティに対して、差別的な言動をすることは「セクシュアル・ハラスメント」(性的嫌がらせ)だと知っているか (質問項目は日本人学生のみ対象)

この質問は、日本人学生のみを対象とした。同性愛や性同一異性障害などの性的マイノリティに対して、差別的な言動をすることは「セクシュアル・ハラスメント」だと知っている日本人学生は、78.1%であり、「知らない」学生は21.9%であった。

表11-1 性的マイノリティに対して、差別的な言動をすることは「セクシュアル・ハラスメント」(性的嫌がらせ)だと知っているか

	知っている	知らない	合計(人)
日本人学生	271	76	347
	78.1%	21.9%	100%

12-(1) 自分の周囲の人が性的マイノリティに対して偏見のある言動をとるような場面にでくわしたことがあるか(日本人学生のみ対象)

「自分の周囲の人が性的マイノリティに対して、偏見のある言動をとるような場面に出くわしたことがあるか」では、「ある」が24.2%、「ない」が62.2%、「わからない」が13.5%であった。

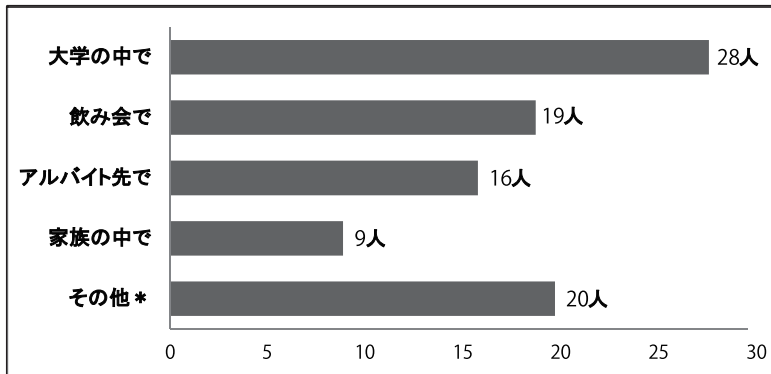
表12-1) 自分の周囲の人が偏見のある言動をとるような場面にでくわしたことがあるか

	ある	ない	わからない	合計(人)
日本人学生	84	216	47	347
	24.2%	62.2%	13.5%	100%

12-2) それは、どのような場面か

では、「大学」28、「飲み会」19、「アルバイト先」16、「家族の中で」9、「その他」20となっており、大学の中がもっとも多い。

図5-1 それは、どのような場面か



*高校10、中学7、SNS 1

12-3) それはどのような言動だったか (自由記載)

表12-3 自由記載の具体的内容

対象	具体的内容	発生場所
男性同性愛	「ホモキモイ！お前ホモか？」のような発言をしていた。	大学
	友人同士の会話ゲイの人に対して少し社会的に特異な人のような表現をしていた。	大学
	「お前、ホモやろ！」みたいな馬鹿にしている一面は少なからずある。	大学
	同性愛的行為を強要しからかっていた。	
	「ホモ」ということばを聞いて「わぁ、ムリ、キモイ」と言っていっていた。	大学

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

男性同性愛	飲み会でAさんがBさんにホモ疑惑をかけてからかっていた。	飲み会
	飲み会で、男性が知人の男性に告白した話（噂）を聞いた。	飲み会
	男子同士が仲良く、スキンシップしていると、からかわれたりしていた。	大学
	男同士のじゃれあいを、ホモ呼ばわりしていた。	大学
	高校で常に二人でいる男同士が、からかわれていた。	高校
	少し女性っぽいや男性に対して、“気持ちが悪い”などと言っていた。	高校
	アルバイト先で、男同士がふざけてべたべたしている時など、“ホモ”と言ってからかっていた。	高校のアルバイト先
	男子校＝ゲイがいると多くの人が思い、その前提で接してくる。	男子高校
	男性同士でトイレに行くとホモ疑惑をかけられ、からかわれていた。	中学校
	男子同士が仲良くしていると、女子から「ゲイ」とのしられた。	中学校で
性的マイノリティ	「私は差別的なことは全く言わないが、“ありえない”などの話をしていることは聞いたことはある」	大学
	男性で女装している人を見て悪口をいっていた。	家の中で
	おネイ批判、父が“おかしい”とか、“ふざけている”とか言っていた。その人の人権を侵害していると思った。	家の中で
女性同性愛	女子学生同士（片方が男っぽい子）が手をつないでいると噂が流れ、2人は嫌な思いをしていた。	高校
	高校の先輩女子とプリクラをとっていた。キスしたと噂をしていた。	女子高

自由記事をまとめると（表12-3）、日本の学生の中で最も多いのが、ゲイに関する言動で、男性同士の関係において、仲良くしていると「ゲイ」や「ホモ」とからかったり、馬鹿にしたり、「ホモ」疑惑をかけるなどといった記述が最も多かった。また、「男子校＝ゲイがいる」と多くの人が思い、その前提で接してくるなど、「先入観や偏見」で男子同士、女子同士が仲良くしていると同性愛の噂を流布するといった行為の見聞なども多く見られた。

13-（1）あなたのまわりに、性的マイノリティと思える人はいるか

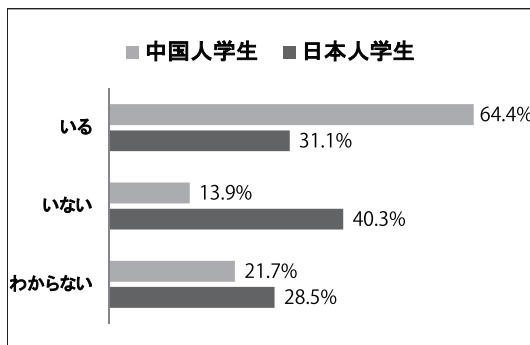
「いる」と答えた人は日本人学生では31.1%、中国人学生では64.4%と、中国人学生の方が約33%多い。反対に「いない」と答えた人は、日本人学生は40.3%、中国人学生は13.9%と26%ほど中国人

学生の方が少ない。「わからない」は日本人学生28.5%、中国人学生21.7%であり、日本人学生の方が約7%「わからない」割合が多い。

表13-1 あなたのまわりに、性的マイノリティ
と思える人はいるか

	いる	いない	わからない	合計(人)
日本人学生	108 31.1%	140 40.3%	99 28.5%	347 100%
中国人学生	190 64.4%	41 13.9%	64 21.7%	295 100%

図6-1 あなたのまわりに、性的マイノリティ
と思える人はいるか



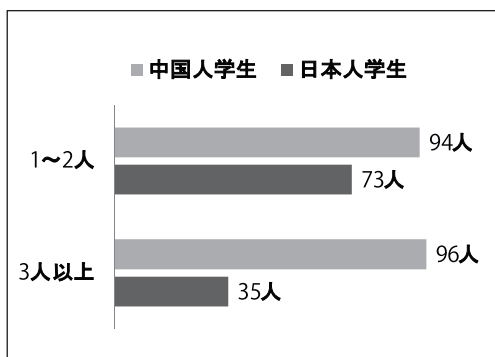
13-(2) どのくらいいるか

「1～2人」では、日本人学生72人、中国人学生は94人と10%多く、「3人以上」でも、日本人学生は35人、中国人学生は96人と、中国人学生の方が20%ほど多い。

表13-2 どのくらいいるか

	1～2人	3人以上	合計(人)
日本人学生	73	35	108
中国人学生	94	96	190

図6-2 どのくらいいるか



日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論的検討

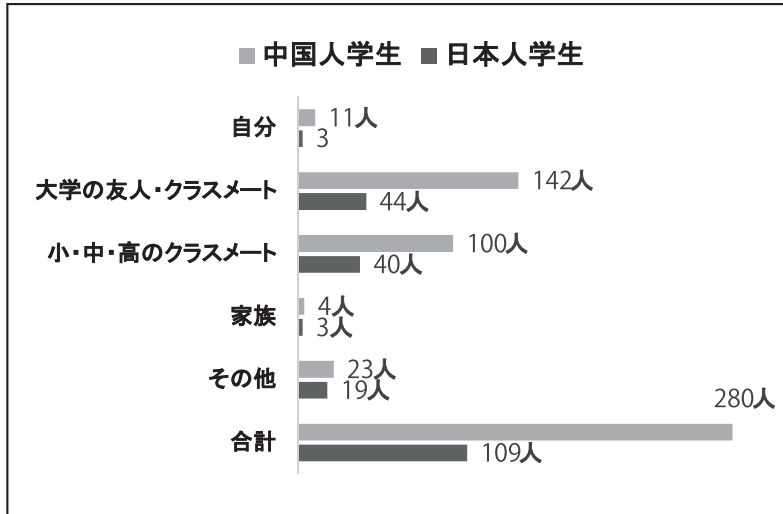
13- (3) あなたとの関係は？

「自分」は日本人学生では3人、中国人学生は11人、「大学の友人・クラスメート」は、日本人学生は44人、中国人学生は142人、「小・中・高のクラスメート」は、日本人学生は40人、中国人学生は100人、「家族」は日本人学生は3人、中国人学生は4人、「その他」は、日本人学生は19人、中国人学生は23人である。

アンケートの回答者数は日本人学生よりも中国人学生の方が少ないが、どの関係においても、中国人学生の数の方が多。また、両国の学生共に大学の友人・クラスメートが一番多く、次いで「小・中・高のクラスメート」となっている。

日本人学生では、大学の友人・クラスメートでは「アメリカにいた時の友人」「海外のインターシップで出会った友人」など留学先の大学での友人があげられている。その他では、「バイト先の同僚、先輩」、「バイト先のお客様」、「アメリカにいた時の友人」、「付き合っている女性(バイセクシュアル)」、「元カノ(バイセクシュアル)」「海外のインターンシップで出会った友人」、「高校の先生、小学校の先生」「バーの店長」などとなっている。

図6-3 あなたとの関係は？(複数回答)



13- (4) その人がどうして、性的マイノリティだと知ったか

【日本人学生】

自由記述を整理すると、多い順に①本人の告白②その人の言動や振る舞いなどから③ネットなどから④伝聞やうわさ、となっていた。具体的には①本人からの告白では、「一番に自らうちあけてくれた。」「自分から教えてくれた。」「カミングアウトしたから。」「仲良くなってから告白してくれた」「留学

先で同性を好きになったと相談されたことがきっかけ「公言していた。」「その人が自らみんなに話したから。」②その人の言動や振る舞いなどからでは「何となく感じた。動きがくねくねしていて、ある程度、歳がいても結婚していなかった。」「LGBTのイベントに参加していた。」「高校のクラスメートで、女性で彼女がいた。見た目もとても男子のようで、“男の子になりたい”と言っていた。」「近所の人で、女性から男性になった人で、声とか見た目、彼女を連れていたから。」③ネットなどからでは「SNS」、「ネット」、「ツイッターで言っているのを見た。」④伝聞やうわさでは「友人から聞いた」など、となっていた。

【中国人学生】

自由記述を整理すると、多い順に①本人からの告白②その人の言動や振る舞いなどから③伝聞やうわさ④ネットなどから、となっていた。具体的には①本人からの告白、「言ってくれた」、「カミングアウト」②その人の言動や振る舞いなどから「見たらわかる」「行為や態度など」、「二人は毎日ずっと一緒に、一人は男っぽい服装」など、③伝聞やうわさ、④ネットなどから、「その人と恋人との写真を見た」などとなっていた。

13- (5) その人はどのような人か

日本人学生では、多い順にトランスジェンダー（30%）、ゲイ（29%）、バイセクシュアル（23%）、がレズビアン（16%）となっている。中国人学生では同じく、レズビアン（40%）、ゲイ（38%）、バイセクシュアル（19%）、トランスジェンダー（3%）となっている。

トランスジェンダーの割合が日本に比べて中国では少ないのは、トランスジェンダーという用語や意味を知らない学生が多いことと、ゲイやレズビアンに比べて、トランスジェンダーに対する理解不十分なため、周囲の人が気付かなかつたり、本人がカミングアウトできない状況があるからと推測される。

表13-3 どのような人か

	ゲイ	レズビアン	バイセクシュアル	トランスジェンダー	その他	全体
日本人学生	44	25	35	46	3	153
	28.8%	16.3%	22.9%	30.1%	2.0%	100%
中国人学生	137	145	71	11	1	365
	37.5%	39.7%	19.5%	3.0%	0%	100%

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

14. 性的マイノリティに関しての意見など

表14-1 日本人学生の自由記載

内容別分類	具体的内容
自分の経験と意識の変容	<p>中、高、大と年齢が上がるにつれ、性的マイノリティの理解が増した。」「30～40人に1人入る確率で、クラスには1人ぐらいいだと知ってから、考えが変わった。」「深くかかわったわけではないが、バイト先で性的マイノリティの方は何人かいた。」「（留学先で同性を好きになったと相談されたことがきっかけ）自分は性的マイノリティではないと思うけれど、彼・彼女たちの気持ちは正直わからなくはない」「私、個人としては、中学生の頃から、“同人漫画”のようなものが周囲にあったため実生活上の性的マイノリティに対しても、他の人ほど抵抗がないかもと、以前考えたことがある。いわゆる“BL”や“百合”を扱った作品が最近多いので、誤解されることも多い気がする。」「実際に接してみると（バイト先の先輩）、何の問題、障害がなく、ただ、体と心の性別が違っていたり、恋愛対象の性別が違うだけだ。男性は女性、女性は男性が好きと言う普通の考え方に留まてはいけないと思う。」「付き合っている女性（バイセクシュアル）で、やはり生きづらそう。彼女は“他者から受容されない”とおびえている。」「大学でめちゃくちゃLGBTについて学んだ。意外と身近にいることに気づいた。友達になって、いろいろな話を聞きたい。」「（以外と普通に接することができるし、楽しい人が多い。」「最近は寛容になってきたからか、大学のような場所では、たまに、うわさが耳に入ったりするので、思ったよりも多いと思う。」「アメリカに比べて日本は性的マイノリティに対して批判的であると、テレビを見ていて思った。」「海外のインターンシップで出会った友人（レズビアン）、は男性と女性のカップルのように、特におかしいとはなかった。その人たちはオープンだった」</p>
自己洞察や気づき	<p>「自分の周りにあまりいないのは、本当にいないのか、隠しているからなのか分からないと思った。」「世界にはたくさんの方がいるから、そのような人々がいることはおかしいとは思わないが、実際に合ってみると自分の考えがどうなるか分からない。（この回答者は“おかしい”“わからない”にチェックしている）」「正直自分の周りにそういう人がいて、実際に正直、自分がどんな気持ちになるかはわからないけど、否定は絶対よくないと思う。人種差別と同じ。」「世の中いろいろな人がいるから、受け止めなきゃと思いました。」「レズビアンであるからといって、すべての女性が恋愛対象ではないということ。」</p>
人々や社会への要望	<p>「法的な保障や社会的な理解が進むといいと思う。」「少しずつでも、みんなが理解するべきだと</p>

<p>人々や社会への要望</p>	<p>思う。」「性的マイノリティの人に出会ったことがないので、自分の友達で、もしいたら隠さずに話してほしい。」「どの人も自分に正直に生きるだけ。差別するべきではない。」「性的マイノリティと言う用語が消える社会になるといい。」「差別や偏見がすこしでもなくなればいいな」「生活がしづらそうなので、今後社会の理解が深まっていったらよいと思う。」「日本でも同性婚が認められれば、幸せになる人が増えるのと思う。」「もっと日本は寛容になるべきだ。」「みんな幸せに暮らせる社会になってほしい。」</p>
<p>意見や考え</p>	<p>「言ってしまうと、その人たちの勝手だと思うので、誰も干渉する必要はない。」「自分がマイノリティでないから、マイノリティを“おかしい”と思うのは自分勝手だと思う。」「LGBTQでも人間性は変わらない。彼ら、彼女らに対する目が厳しいと思う。」「性的マイノリティだから後ろめたくなる必要はない」「そういう人たちへの認識や配慮が足りないと思う」「昔は性的マイノリティに対して負のイメージが強いが、最近はオネエタレントのおかげでプラスのイメージが生まれてきたと思う。」「性的マイノリティを差別するのは、人種差別をするのと同じぐらい失礼」「完全に受け入れることは難しいけど、からかうことはしてはいけないと思う。」「“おかしい”、“おかしくない”は他人が決めることではないと思う。」</p>
<p>疑問・質問</p>	<p>性的マイノリティに偏見を持っている人は、テレビ番組でオカマの人が出ていたらおかしいと思うのでしょうか」「少子化問題を促進する要因として取り上げられていること」「ホモやレズの人、その人同士じゃないと、付き合えないんですか？男同士、女同士の関係が成り立つことは、同性にひかれる人同士？」</p>
<p>否定的な意見</p>	<p>「性的マイノリティが当たり前の世の中になってほしくない」「大学の中で、飲み会、アルバイト先で偏見のある言動をしている場面を見ている。自分の周りに当事者はいない。友人として接することはできない。」「大学の授業で性的マイノリティについて聞くことが多いが、押しつけに聞こえることが多いので、基本的に授業で取り扱ってほしくない（この記述をした女子学生は“もし、あなたの友人が性的マイノリティだとしたら、変わりなく接することができるか”という質問に「できる」と回答しているが、他の質問にはほとんどが否定的な回答をしている）。」「LGBTについて理解することは大切だが、現代社会でこの課題がここまで盛り上がっていることは異様だ。昔からこういう人はいただろうに。」（この回答者は他の質問項目でも否定的な回答をしている）</p>

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

表 1 4 - 2 中国人学生の自由記載

内容別分類	具体的内容
自分の経験と意識の変容	「昔は知らなかったが、大人になってきて、自分の考え方が変わった。」
意見や考え	「みんな平等」「恋愛観は平等だ」「差別してはいけない」「自由であるべきだ」「愛は無敵だ」 「中国人の思想はもっと開放すべきだ。差別してはいけない。」「人はもっと理解すべきだ。」 「たぶん社会の発展にも原因がある。人々は、もっと認めてあげるべきだ。」「いつか国に認めてもらいたい。そして、安全性や健康にも注意すべきだ。」「差別しないで。彼らはつらいのだから。」 「選んだ道が違うだけだ」「彼らのことを理解できなくてもいいが、尊重すべきだ。」「人々は平等で、恋愛観ももちろん平等だ。DNAの性で生まれつきの人が多いので、差別してはいけない。個人の自由だから。」「彼らはおかしいのに、悪いとは思わない。」「一般人と接するような態度で接することが大切だ。」「ゲイは、よく誤解される。封建観念の影響だ。」「注目しすぎると、逆に失礼で不自然だ。」
当事者の状況	「家族に抑圧される」「レズビアンはカミングアウトできなくて、抑圧される」「ゲイは常に少女の心をもっている」「LGBTの中でも差別することがある。」「顔がいい、かっこいい男性は彼氏がいる。」「少数者は多くなっていく。」「同性愛の話題をよく聞いたことがあるが、現実には周りに同性愛の友達がいれば、平気であるわけがない」「彼らはカミングアウトすると、精神的、心理的ストレスがたまる。」「その人たちは敏感だ」
支持・擁護・応援	「少数の人だから守り、支えるべきだ」「誰も認めてくれないとは思わないで」「幸せになるのを祈る」「自分がバイセクシュアルの人を支える、差別反対、意識の発展を求める」「あなたは特別の存在だから頑張れ！」
人々や社会への要望	「性的少数者への社会の関心」「トイレの改善」「同性じゃないと愛し合うことなんかできない。中国も早く、同性結婚を合法化してください。愛は無敵だ。」「差別しないで！人はみな同じ！受け入れてくれ！」「同じだろ、受け入れてくれ！」
注意・助言	「病気に注意」「安全性に注意」「健康に注意」「一緒に暮らすことは構わないけど、もしかしたら他人に影響を与えるかも。」「公共の場では注意をしたほうがいい。認めない人もいるから。」 「他人に迷惑をかけなければ大丈夫」「別に勧めることではないが、若いうちからの恋愛を抑えることをやめた方がいい。恋の芽生えが抑圧されることで、感情の質が変わってしまうのだろう。」「それぞれの性的指向を尊重する。彼らの意思に沿って、生きていって欲しいけど、他人の迷惑に

注意・助言	ならないように。」
否定的な意見	「わからない、理解できない」「接するけど、深くは関わらない」「中国では責任を重視しているので、結婚や出産もなしだと無責任となり、恥ずかしい」「ボーイズ・ラブはよくあるけど、現実的には理解・尊重できない」「普通にコミュニケーションできない」「公共の場で親しい行為をするな」「女性が男性っぽくなるのは受け入れられるけど、男性が女性っぽくなるのは気持ち悪い」「もし先生の周りに性的少数者がいれば、先生もその人を普通に対処することはできないだろう」

【日本人学生】

自由記述を内容別に分類（表14-2）すると、「自分の経験と意識の変容」、「自己洞察や気づき」、「人々や社会への要望」、「意見や考え」、「疑問・質問」、「否定的な意見」に整理できた。

「自分の経験と意識の変容」の記述が最も多く、留学先やバイト先、友人、恋人など、実際にLGBTの人と付き合い中で、彼らのことを知り理解が深まっていたというような内容が記されていた。「自己洞察や気づき」では、「自分の周りにあまりいないのは、本当にいないのか、隠しているからなのか分からない」ということに気づき、「出会ったことがない」「いない」のではなく、「自分が気付かない」という新しい視点を獲得している。また、「おかしいとは思わないが、実際に合ってみると自分の考えがどうなるか分からない。」（この回答者は“おかしい”“わからない”にチェックしている）「周りにそういう人がいて、実際に正直、自分がどんな気持ちになるかはわからない」では、「出会う」ことの体験、当事者を知る体験で、自己の意識変化の可能性を示唆しているような内容である。「人々や社会への要望」についての記述では、同性婚の合法化や差別や偏見の解消への期待などが記されていた。また、若干「否定的な意見」もあった。それはアンケートで「非受容的」な回答をした人たちで、「性的マイノリティに関する大学の授業を押しつけに感じる」などの意見があった。

【中国人学生】

自由記載（表14-3）では、上記にあげた日本人学生の内容分類以外に、中国人学生では「支持・擁護・応援」、「注意・助言」についての記述、「当事者の状況」、「人々や社会への要望」では、当事者と思えるような内容が散見される。

「自分の経験と意識の変容について」の記述は少なく、最も多いのが、「平等」「差別してはいけない」「恋愛は自由」「中国人の思想はもっと開放すべきだ。」など、人権尊重や社会の平等を希求するような「意見や考え」が多かった。「当事者の状況」では「家族に抑圧される」「レズビアンはカミングアウトできなくて抑圧される」「LGBTの中でも差別することがある。」など、LGBTの当事者や関係者にしかわからないような深刻でリアリティのある内容の記述が見られた。「支持・擁護・応援」では「少数の人だから守り、支えるべきだ」「誰も認めてくれないとは思わないで」「あなたは特別の存在だから頑張れ！」など、当事者への思いや共感が読み取れるような内容であった。また、「人々や社会への要望」

として、同性婚の合法化、差別の解消や平等を求める声などがあつた。「注意・助言」では、「病気」や「健康」、「安全性」や「他人への迷惑」を考え注意を促すような記述もあつた。これは、男性同性愛者のエイズ感染の先入観からもたらされた注意喚起なのかもしれない。「否定的意見」では、「結婚・出産しない」ことへの批判、「女性が男性っぽくなるのは受け入れられるけど、男性が女性っぽくなるのは気持ちが悪い」などというジェンダー・バイアスによる意見もみられた。

第2章 調査結果のまとめ、分析、考察

- 「性的マイノリティ」という用語については、日本人学生では7割台半ば、中国学生では6割台半ばの学生が知っていた。「ゲイ」、「レズビアン」、「バイセクシュアル」という用語については、日本人学生はほぼ全員、中国人学生では9割以上が知っているが、「トランジェンダー」は、日本人学生は約7割台半ば、中国人学生では約4割強と、他の用語に比べて認知度が低かつた。
- それらの用語を「どこで知ったか」では、日本人学生では、「テレビ・映画・DVD」(8割弱)が最も多く、次いで「インターネット」(6割弱)、「学校」(4割弱)の順である。一方、中国人学生では、圧倒的に「インターネット」(約9割)が多く、次いで「友人との会話」(7割弱)だつた。アンケート用紙(中国人学生専用)には「学校」を選択肢にいれていなかったが、近年中国の大学で、性的マイノリティについてごく少数の大学では授業で教える所もでてきているが、その他の自由記載では、学校はゼロであつた。
- 中国人学生では、男性同性愛に対して「非受容的」な意識が強いこと、女性同性愛よりも、男性同性愛の方が否定的にとらえられる傾向があることが読み取れた。特に、男性は同性である男性との関係(手をつなぐ、男性が男性に恋愛感情を抱く)において「非受容的」であることが顕著に示されていた。また、トランスジェンダーに対する認知度が低く、「非受容的」であることが分かつた。
- 「非受容的」な回答では、「男らしさ」「女らしさ」や性役割など、ジェンダー・バイアスのある記述が目についた。伝統的な性役割観念が強い人ほど、LGBTを受容しない傾向があるのかもしれない思つた。
- 日本人学生や中国人学生の自由記述では、「おかしい」を選択した理由として、「病気」だから、「普通」「正常」ではないからが多く、「おかしくない」と選択している場合でも、「障害だから仕方がない」や「病気だから」と病理化することで、その人たちを受け入れようとする傾向も一部見られた。また、同性愛やトランスジェンダーの結婚や出産について、「中国では責任を重視しているのだから、結婚や出産もなしだと無責任となり、恥ずかしい」という意見や、日本人学生でも、「少子高齢化対策として」子どもを産まない女性を蔑視するような見方があることが推察できた。シングルでの生き方や子どもを持たない生き方など多様なライフスタイルやパートナーシップのあり方が想定されておらず、「セクシュアル・ライツ」の観点や「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」の観点から、LGBTの権利の問題について考察する必要性を感じた。
- 中国人学生との比較においては、質問(4~10)において、日本人学生の方が「わからない」と答える人の割合が多かつた。特に、女性の方が男性よりも、「わからない」と答える人の割合が多かつた。

た。例えば、LGBTに関する用語では、ことばの意味を知っている人の割合は中国人学生よりも日本人学生の方が多いのに、「わからない」と答える割合が多かった。これは、白黒つけることを避け「あいまいさ」を保つことで「波風たてない」日本人の社会的性格、国民性があらわれているように思われた。一方、中国人学生は、用語の認知度は日本人学生よりも低いのに、「わからない」と答える割合は日本人学生よりも少なかった。中国人学生はネガティブな意見でも自分の考えを明確に表明できると思った。両国の学生の社会的性格や国民性がよくあらわれていると思った。

- 身体の性と反対の性別を生きる人たちについて、「おかしい」と思う日本人学生はごくわずか(1.5%)なのに対して、中国人学生は25.9%が「おかしい」と答えている。それは、トランスジェンダーに対する認知度の低さと関係していると思われる。「おかしい」と回答した理由の自由記載では「精神的におかしい」「迷惑になる」などの理由が記されており気になった。

- 日本人学生のみを対象としたセクシュアル・ハラスメント」に対する質問であるが、LGBTに関して差別的な言動をすることは、セクシュアル・ハラスメントだと知っている学生は、8割弱であり、2割強の学生が知らなかった。

- 性的マイノリティに対して偏見のある言動を見分したことがあるかを問う質問では、「ある」が2割台半ば、「ない」が6割強であった。「どういう場面か」を問う質問(複数回答)では、「大学」が一番多く、次いで「飲み会」、「アルバイト先」となっており、男性同士が仲良くしていると、「ホモ」であることからかうなど、ほとんどが男性同性愛に関するセクシュアル・ハラスメントに関する記載であった。

- 「あなたのまわりに性的マイノリティと思える人がいるか」の質問では、「いる」では日本人学生が3割強、中国人学生は6割台半ばが「いる」と答えている。更に「どのぐらいいるか」でも中国人学生の方が「3人以上」いると回答した人の割合が多い。性的マイノリティと「思える人がいる」という割合は中国の方が圧倒的に多い。その人との関係では、日本人学生、中国人学生共に「大学の友人・クラスメート」が最も多く、次いで、「小・中・高のクラスメート」となっている。「その人がどうして、性的マイノリティだと知ったか」では、両国共に「本人から打ち明けられた」「カミングアウト」が最も多かった。このような状況を鑑みると、中国の大学における性的マイノリティの存在は、日本以上に可視化されているのではないかと推測される。その背景に、中国の学生たちは、大学の寮に住み、ほぼ4年間生活と学業をキャンパスの中で共にする。集団生活を通して、日本人学生よりも学生同士が深くつながり、プライバシーが見えやすいという背景があるからである。

- 「その人はどのような人ですか」では、日本人学生が一番多いのがトランスジェンダーだが、中国人学生では、レズビアンが一番多く、次いでゲイである。トランスジェンダーの割合が日本人学生に比べて圧倒的に少ないのは、中国人学生は、ゲイやレズビアンに比べて、トランスジェンダーについて(用語や意味対など)知らない人が多いので、当事者がいても認識できないからだと推測する。

- 「性的マイノリティに関して、気づいたこと、意見など」の自由記載では、日本人学生では、「中、高、大と年齢が上がるにつれ、性的マイノリティの理解が増した。」「30～40人に1人入る確率で、クラスには1人ぐらいだと知ってから、考えが変わった。」など、「自分の経験と意識の変容について」述べる回答者が多く、アルバイト先や小・中・高・大学、留学先等での性的マイノリティとの出会いによっ

て変わったといういくつかの例があげられていた。一方、「わからない」と選択した日本人学生では、「そういう人に出会ったことがない」「まわりにいない」という記載も多く、もし、実際の出会いがあれば当事者への関心や理解が深まり、意識が変わっていたかもしれない。

- 自由記載では、日本人学生と中国人学生の「非受容的」な回答では、「普通でない」「正常でない」、「受容的」な回答では、「正常」「普通」という理由が多く見られた。「普通とは何か」「正常とは何か」「異常とは何か」、人権の観点から考える必要があると思う。

- 両国の学生では、「おかしくない」「気持ち悪くない」の理由の自由記載では、「一般的」になってきている。「多くいる」「見慣れた」という理由が多くあげられていた。それでは、反対にLGBTの人たちの存在が“見慣れない”、“めずらしい”、“少数”“一般的でない”すなわち、マイノリティである場合は受容できないということなのかとの疑問を持った。

- 日本人学生と中国人学生の選択の理由では、「非受容的」な回答において「他人のこと、関係ない」という理由も少なくなく、反対に、「受容的」では、「迷惑がかからなければよい」「本人の勝手」という理由も見られ、両者に共通する「無関心と利己主義」をどう捉えればよいのかと思った。また、「わからない」を選択した回答者では「経験したことない」、「出会ったことない」という理由も散見された。しかし経験したことがない人でも、「当事者のことを想像して」、その人の立場に立って考えた記述もあった。このような学生たちの意識の違いはどのように生まれるのか。人間としての資質について考えさせられた。

- 「非受容的」な回答の記載では、「大学の授業で性的マイノリティについて聞くことが多いが、押しつけに聞こえることが多いので、基本的に授業で取り扱ってほしくない」という意見があった。日本の大学では、性的マイノリティに関する授業は、人権教育やジェンダーに関する科目などで行われているが、否定的意見を持つ学生にどうすれば興味を持たせる授業をするかが課題である。

第3章 先行調査と日本と中国の社会・文化的背景を踏まえて

「日本と中国の大学生のLGBTに関する意識調査」では、日本と中国の先行調査では、実際の質問項目や分析手法が必ずしも同じではないため、厳密な比較検討を行うのではなく、先行調査の知見を本調査の補完として活用していく。

今回の調査では、日本の先行調査と比較して、LGBTの用語についての認知度が非常に高かった。しかし、その比較は難しい。それは、対象が同じ大学生でも、先行調査のインターネットによる調査(Student Lab編集部、2015)、と個別の大学の学生を対象とした調査(虎岩朋加、2017)では、用語の認知度に関きがあるなど、調査手法が異なるからである。また、中国の先行調査との比較では、中国の調査では、「同性恋」の認知度や認識について調べているが、「性的マイノリティ」「ホモセクシュアル」「ゲイ」「レズビアン」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」の認知度についてはほとんど調べていない⁷⁾。それらの用語の情報源については、今回の調査では、日本人学生では、「テレビ・映画・DVD」が最も多く、次いで「インターネット」「学校」の順である。一方、中国人学生では、圧倒的に「イ

ンターネット」が多く、次いで「友人との会話」だった。中国の先行調査でも、「インターネット」が多く、「学校」が少ない点が、今回の調査と共通している8)。

LGBTに対しての学生の「受容度」に関しては、日本の先行調査では、調査手法が異なり比較できるような調査がない。また、中国の先行調査（主に同性愛を中心とした調査）でも、今回の調査とは質問内容なども異なり厳密に比較できないが、部分的には今回の調査の方が高い結果が出ている9)。それらは、都市出身か農村出身かという属性の違いや、学生の専攻や大学のカリキュラムの違いなども関係しているかもしれない10)。

今回の調査で明らかになった性別にみる特徴として、日本人学生と中国人学生において、女子学生の方が男子学生よりもLGBTに「受容的」であること、また、男性同性愛者よりも女性同性愛者の方が受容されやすいこと、男性が同じ性である男性同性愛者に対して「非受容的」であることがわかった。それは、同性愛に関する日本と中国の大学の先行調査でもよく似た傾向がみられた11)。

「ホモホビア」とは同性愛に対する「嫌悪、恐怖」のことであるが、「ホモホビア」には男性による男性同性愛者嫌悪の問題が大きく関係していることを今回の調査で認識させられた。「セクシュアル・ハラスメント見聞体験」(表12-3)では男性同士の関係に対する揶揄やからかいなどや、男性同性愛に対する「嫌悪・恐怖」には、「男性を好きになってしまったら」、「好きと告白されたら」という懸念も多く見られたからである。

また、先行調査(吉仲崇、他、2015)では、LGBTの知り合いがいる学生は、知り合いがいない学生に比べて「LGBTの理解」がある学生が多く、「身近に当事者がいるとLGBTを理解しようとする姿勢が生まれる」と指摘している。ただし、「同性愛は受け入れられなくても、性同一性障害は受け入れられると答える人が多く、性同一性障害を“障害”という病理として理解可能な範疇に組み込むことで、受容が促される傾向がある」ことを指摘している。また、医学生を対象とした調査(西成寛、他、2012)では、性別違和(性同一性障害)の「知識不足だと、精神療法や自己統制による性自認の変更に期待する傾向が強い」こと、「病理モデルによる理解は、トランスジェンダー学生に、ジェンダーステレオタイプに従うことへの強制や性別変更への圧力になる」との懸念を示している。

一方、中国人学生については、今回の調査では、「病気に注意」「健康に注意」という文言が幾度も散見された。同性愛を心理的な病気だと思い、感染症などを伝染させるとのイメージを持っている人が多いからなのだろう。

中国の大学における医学生を対象とした先行調査(瞿艶、他、2015)では、医学大学でも同性愛は「異常」と答えた人が6割以上を占めており注視させられた。

中国においては、これまで同性愛は弾圧されていたが、20年ほど前に、同性間の性的行為は刑法の処罰の対象から削除され、同性愛は精神病とは見なされなくなった。しかし、精神疾患の診断マニュアルでは、「心的障害」と規定し同性愛に対する「治療」がなされており国際的に批判されている12)。政府の性教育に関する基本方針を示す「小中学校健康教育指導要領」の指針には、性的指向・性自認に関しては言及されていない13)。また、大学の教科書において、同性愛の「病理化」の内容が改められておらず14)、大学の授業においても性的マイノリティの人権に関する授業はごく一部の大学を

日本と中国の大学生のLGBTに関する 意識についての試論的検討

除き実施されていない状況がある¹⁵⁾。今回の調査で明らかになった中国の一部の学生の間違っただけの認識や意識は、こういう社会・文化的な背景の反映ではないかと考える。

今回の調査の「性的マイノリティに関する意見など」(表14-1)では、同性愛やトランスジェンダーの結婚や出産について、「中国では責任を重視しているのだから、結婚や出産もしないと無責任となり、恥ずかしい」という意見や、日本人学生の記述でも、「少子高齢化対策として」子どもを産まない女性を蔑視するような見方が散見されたが、シングルでの生き方や子どもを持たない生き方など多様なライフスタイルやパートナーシップのあり方が想定されておらず、「セクシュアル・ライツ」の観点や「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」の観点から、LGBTの権利の問題について考察することも必要だと考える。

更に、中国人学生自由記載では、「家族に抑圧される」「レズビアンはカミングアウトできなくて、抑圧される」「LGBTの中でも差別することがある。」など、当事者が記したとも思われるようなリアルな状況が散見された。LGBT間の差別について、中国の性的マイノリティの運動の中でも批判がなされている¹⁶⁾。トランスジェンダーの運動は遅れていたが、昨年(2017年)、初めて、当事者団体(北京同志中心)によるトランスジェンダーに関する調査報告書が出された¹⁷⁾。そこには、学校での暴力被害やハラスメント、学校中退率の高さなどが示されていた。また、家族からの暴力被害も深刻なことも明らかにされていた。報告書が示すような、偏見や差別の下で大学や家庭から排除されていく困難な状況にある学生は、どの中国の大学でも潜在化していると思われる。対応を要する課題として認識されるためには、大学において、まずは実態把握が必要であろう。

おわりに

今日、日本では法務省、文部科学省において性的マイノリティの人権啓発教育は政策課題になっており¹⁸⁾、大学においても、それらの内容はジェンダー論や人権教育などの科目で取り上げられている。

今回の「日本人と中国の大学生のLGBTに対する意識調査」では、中国人学生に比べて日本の学生の方が「受容的」な割合は多く、反対に「非受容的」な割合は少なかった。偏見や差別の問題を考える上で、「受容的」「非受容的」な割合が全体のどれくらいだと「多い」「少ない」といえるのか。その基準をどこに置くのか。それは各人の人権感覚や人権意識によって異なるだろう。その時代の、その国・地域の人権意識の到達度、社会的な合意形式や、人権に関わる世界的な条約や国の法律¹⁹⁾など、総合的、多様な角度から評価できると考える。

今回の調査では、国や地方自治体の人権に関する意識調査のように、人権教育や施策のために実施したものではない。その評価は筆者の主観によるところが大きい。日本人学生の7人に1人が「男性同士が手をつなぐ」ことに「非受容的」で、特に、男性では5人に1人と高い割合であった。当事者の人権を重視する観点から考えると、この割合は、決して「少ない」とは言えない数値だと思う。

日本国憲法(第19条)は「思想・良心の自由」を保障している。「内心の自由」とは、「人それぞれが、心の中で何を思い何を考えるかは、他人はおろか国家からも一切干渉されない自由」である。「内心に留めている限りにおいては他者の人権を侵害することはあり得ないので、“公共の福祉”による制約

は受けない。」また、「個々人の内心は尊重されるべきであり、強制的な内心の告白を迫るような行為は避けるべき」だと考えられている。「ただし、これが一旦外部へ表示されることになれば“表現の自由”となるので、“公共の福祉”による制約を受ける場合が出てくる」²⁰⁾ のだという。

学生の自由記載には、「性的マイノリティを差別するのは、人種差別をするのと同じぐらい失礼」との意見があった。LGBTの人権に対しても、そのような社会的合意が形成されていくために、「内心の自由」は保障しつつも、“公共の福祉”の観点からは、彼らの意識の変容を求めていくことが重要だと考える。なぜなら、「内心」に収められている意識は、それが表面化したときには、「セクシュアル・ハラスメント」のような差別的言動となる。「ホモ、きもい」、「わあ、ムリ」などという発言を「セクシュアル・ハラスメント見聞体験」(表12-3)として、学生たちは述べていたが、偏見や差別意識があれば、それは意図的でなくても日常生活で無自覚に表出され、「差別行為」となる。「関係ない」、「経験ない」「出会っていないから」とLGBTの人たちとの関係やその問題に、「無関心を装う」「関与を避ける」傾向や、「LGBTのことを取り上げすぎ」、「授業は押し付けに感じる」(表14-1) というような学生たちの声に対して、人権を尊重することは人類の普遍的な課題であり、LGBTの人権も同様に、さげられない課題であることを学生たちが認識していけるように「内面への問いかけ」を続けていくことが大切だと考えるからである。

差別意識と性差との関係や、マジョリティだから(多数、見慣れている)、病気、普通だから、ということと学生たちがLGBTを容認する傾向や、そのような意識について、どう考えるのか、更に検討していければ思う。

日本や中国において、LGBTの学生が自分らしく学生生活をおくれるように、学内のシステムの改善と合わせて、偏見や差別をなくすために個々人の意識を変容していくような大学における人権教育は必要不可欠である。本調査研究では、学生たちのLGBTに対する様々な意識のありようを考察した。この成果を授業の中で還元していけたらと思っている。

最後に、本調査を実施するにあたって、協力いただいた大連外語大学日本語学院の教職員の皆様、北九州市立大学の諸先生方、中国語の性的マイノリティに関する資料の収集・翻訳をしていただいた中国女性史研究家の遠山日出也氏に謝意を申し上げたい。

注記

- (1) 株式会社電通におけるダイバーシティ課題対応専門組織「電通ダイバーシティ・ラボ」が全国69,989名を対象に実施した「LGBT調査2015」
- (2) 2013年版「人権教育・啓発白書」(法務省・文部科学省)では、人権教育及び人権啓発に関する施策において、「性的指向・性自認」に関する人権問題を取り上げ、地方自治体の課題にもなっている。
- (3) 中国の歴史において、国家の政策により性的マイノリティに対する弾圧や規制がある中、当事者運動は進展してきた。国の弾圧や規制に対して創意工夫を凝らした運動が展開されている。
遠山日出也「中国の行けるセクシュアル・マイノリティをめぐる政策と運動」『近きに在りて』

第58号、(2010年)。

- (4) 日本の大学生を調査対象とした性的マイノリティに関する意識調査は多くない。2010年以降の調査論文の中から①虎岩朋加、他「敬和学園大学LGBTに関する学生意識調査2016」『人文社会科学研究所年報』第15巻、敬和学園大学、(2017年)、②吉仲崇、他「セクシュアル・マイノリティに対する意識の属性による比較—全国調査と大学生対象の先行研究を中心に」『新情報』103巻、新情報センター、(2015年)、③「第7回少年の性行動全国調査」日本性教育教会、(2013年)、④「LGBTに対する意識調査」Student Lab編集部 (2015年)、⑤西成寛、他「性同一性障害とセクシュアル・マイノリティに関する医学部学生の意識調査」G I D学会雑誌、Vol.5、No1、通巻5号、(2012年)の中から、類似箇所を参照した。
- (5) 中国の大学における学生の性的マイノリティに関する先行調査では、2000年代に発表された報告書の中から、筆者の調査と質問項目が類似する次の9つの調査を選択した。①王浩「西安市487名大学生同性恋認知態度踏査」『中国衛生』第28巻第7期(2007年) ②彭玲、他「某高校大学生体同性恋的認知和態度調査」『保険医学研究与实践』第6巻第2期(2009年)、③田喚、他「広州某高校大学生対同性恋的認知与態度」『中国学校衛生』2011年1期、④胡均「对我国当前大学生同性恋性觀念的調查分析与教育对策」『中南大学修士論文』(2012年)、⑤譚繼鏞、他「福建省廈門市某高校大学生対大学生対同性恋認同態度調査」『中国健康教育』第28巻第7期(2012年)、⑥蓋彦君、他「当代大学生対同性恋者的態度研究」『保健医学研究与实践』(2013年1期)、⑦唐伝英、他「大学生対同性恋的認知及其对学生教育管理的思考啓示—基于北京市12所高校360名大学生的抽樣調査」『思想政治教育研究』第30巻第1期(2014年)、⑧翟艶、他「雲南省高校大学生対同性恋的認知与対態度調査研究」『現代預防医学』(2015年1期)、⑨方嫣、他「日本動漫対大学生恋態度的影響」『戲劇之家』(2016年3期)
- (6) LGBTは頭字語であるが、これ以外に英語において、様々な、類似した性的多様性の集団を表現する頭字語がある。LGBTにQ (Questioning) を加えたLGBTQや、インターセックス (Intersex) を加えたLGBTIが一部で使われることがあり、その是非についての議論もある。性は多様であり、LGBTは“性的マイノリティ”の一部だが、本調査ではLGBTに限定した。
- (7) 用語の認知度に関して、「LGBTに対する意識調査」Student Lab編集部 (2015年) のインターネット調査での質問は、LGBTと言う略称の認知度であり、「ゲイ」「レズビアン」と言う用語ではないので、数値が低いことが推測される。中国では、“性的マイノリティ”については“性少数”、“性小衆”“同志”。“レズビアン”については、“女性同性恋”、“拉拉”など複数の用語があり、どの用語を質問項目で用いたのかで、認知度に違いが出てくる可能性を中国女性史研究家の遠山氏は指摘している。日本の先行調査の所で先述したように、ゲイという用語は知っているが、LGBTやGという略語は知らないという人もいるので、用語の用い方により、調査結果の数値にも違いが出てくるのが推測される。
- (8) 前掲書 (注5) (田喚、他 2011) では、「インターネット」、「友人・学校」「映画・テレビ」が多く「学校」が少ない。(唐伝英、他、2014)も「インターネット」が多い。

- (9) 日本の先行調査との比較では、注(4)(日本性教育教会、2013)では、「同性と性行為をすることがあってもかまわない」は、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」は約46%、「男性同士の性行為は、気持ちが悪い」でも、同様の選択は約34%、「女性同士の性行為は、気持ちが悪い」の回答では、約53.7%である。しかし、今回の調査では、「手をつなぐ」、「恋愛感情を持つ」ことについての質問であり、「性行為」の方がハードルが高いため、比較できない。(吉仲崇、他、2015年)では、今回の調査と類似する質問で、肯定的回答の割合は、「男性同士の手つなぎ」(約70%)、「女性同士の手つなぎ」(約20%)、「男性同士の恋愛感情」(約47%)、「女性同士の恋愛感情」(約42%)であるが、回答者の年齢は20歳～70代までであり、年齢階層が異なるので比較できない。また、中国の先行調査との比較では、今回の調査の、「友人が性的マイノリティだったらこれまでと変わりなく、その友人と接することができるか」では、先行調査では同性愛者との関係を問うものであるが、注(5)(田喚、他、2011)の「友達になれる」の数値が今回の調査よりも低いことや、(胡均、2012)の「受け入れられない」+「絶対に受け入れられない」の数値が今回の調査の数値よりも低いことや、(譚繼鏞、他、2017)の「反感を持ち次第に疎遠になる」+「すぐに絶交する」の数値、(瞿艷、他、2015)の「受け入れられない」+「強く反対する」の数値に着目すると、今回の調査の中国人学生の意識の方が、若干「受容度」が高いように思われる。
- (10) 中国の先行調査では、「同性愛を受け入れるかどうか」では、農村出身と都市出身、大学の学部、性別による差が大きい。それは、中国の先行調査では農村出身と都市出身との差が重視されており、日本の大学生と中国の大学生を比較する場合に、出身を分類すれば、差は縮小するかもしれない。また、今回の調査の対象は、外語大学の日本語学院の学生であり、注(5)(方嫣、2016)によると、重慶大学など10大学における調査では、日本のアニメ・漫画が好きな大学生は、同性愛を認める人の比率が、それらが好きでない人より顕著に高いという結果がでており、同性愛を扱った日本のアニメや漫画など日本文化の影響が考えられる。
- (11) 前掲書、注(4)(日本性教育教会、2013)では、女性51%と女性の方が同性愛について9%も肯定的回答の割合が高いことを指摘している。(吉仲崇、他、2015)では、男性の回答で「男性同士の性行為を気持ちが悪い」の回答は8割以上だが、「女性同士の性行為を気持ちが悪い」は半数以下である。それに対して、女性の回答で「男性同士の性行為を気持ちが悪い」は約半数であり、「女性同士の性行為を気持ちが悪い」との回答も半数以下という数値から、男性は自分と同性である男性同性愛者の性行為について、「女性同士の性行為」よりも否定的なこと、女性は、男性同士の性行為、女性同士の性行為について、男性に比べて寛容であった。中国の先行調査では、前掲、注(5)(胡均、2012)、(胡譚繼鏞、他、2017)、(瞿艷、他、2015)、では男性同愛の受容度よりも、女性同性愛の方が受容度が高かった。また、性別による回答では、男性回答者が同性である男性同性愛者に対する受容度は、男性回答者の女性同性愛者に対する受容度や、女性回答者による男性同性愛者、女性同性愛者に対する受容度と比べると最も低かった。
- (12) 遠山日出也「中国の行けるセクシュアル・マイノリティをめぐる政策と運動」『近きに在りて』第58号、(2010年)、121頁。

- (13) 前掲書、注(12)、122頁。
- (14) 中国の大学の教科書は、同性愛を「異常」と記述するものが多い。「中国の大学の教科書の中の同性愛に対する誤った、汚名を着せる内容及びその影響の調査報告書」中山大学ジェンダー教育フォーラム、(2014年)では、同性愛は医学や心理学でしか扱われず、扱っている教科書の4割は、同性愛を病気、または異常(「心理的障害」、「性変態」として扱っていた。2015年、当事者団体は大学教科書の是正をめざすために、同性愛蔑視の教材を発行している出版社を裁判に訴えた。また、2014年から全国各地の15のLGBT団体が共同で、大学の教員に働きかけて、ホモホビア教科書の拒否を表明してもらおう運動がなされている。遠山日出也「学校におけるホモフォビアなどについての教員への働きかけ」中国女性・ジェンダーニュース 2017年2月27日 <http://genchi.blog52.fc2.com/blog-entry-486.html>
- (15) 2003年から復旦大学で同性愛についての講義が開始。遠山日出也「中国の行けるセクシュアル・マイノリティをめぐる政策と運動」『近きに在りて』第58号、(2010年)、2009年～2013年、中国の華南理工大学、中山大学など4大学でLGBTの団体が教員と協力して、大学で性的マイノリティをテーマとする選択科目を開設、前掲書 注(14)
- (16) 中国のLGBT運動はゲイが中心で、レズビアンからの批判がされている。バイセクシュアルはLGBTの中でも「淫乱」とさげすまれるなど、LGBTの中での不平等があり、LGBT運動の中で、何からの解放を目指すのか、その思想、運動のあり方をめぐる対立や論争がある。遠山日出也「近年の中国におけるLGBT運動とフェミニスト行動派」『現代思想』2015年)
- (17) Beijing LGBT center 2017 Chinese Transgender Population General Survey Report.
- (18) 2013年版「人権教育・啓発白書」(法務省・文部科学省)では、人権教育及び人権啓発に関する施策において、「性的指向・性自認」に関する人権問題を取り上げた。2017年には「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について」(文部科学省)を通知し、小中校だけでなく、大学においても当事者の教育環境への配慮や相談支援活動並びに、教職員・学生への意識啓発の取り組みの重要性が求められている。
- (19) 世界では、国連は同性愛者の人権を支持する決議案を可決(2001年)、世界保健機関の性別変更生殖機能の喪失を強いるのは人権侵害だと廃絶を求める共同声明(2014年)、オリンピック憲章でLGBTの差別禁止規定(2014)、国連人権理事会は「性的指向と性自認を理由とする暴力と差別からの保護」に関する決議を可決(2016年)、日本では、男女雇用機会均等法でLGBTのセクシュアル・ハラスメント防止を規定(2014年)、文部科学省「性同一性障害の児童・生徒に対するきめ細やかな対応の実施」を通知(2015年)、障害者差別解消法の制定(性同一性障害への差別禁止・合理的配慮)(2016年)、文部科学省通知「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について」(2017年)
- (20) 「2018 日本国憲法の基礎知識」.
<http://kenpou-jp.norio-de.com/siso-ryousin/> (アクセス2018年1月10日)

大学における性的マイノリティに関する意識調査

調査期間 2016年7月13日~7月31日

中国と日本における性的マイノリティに関する大学生の意識についての比較検討を行う予定です。この調査を実施する目的は、現状把握と今後の課題について考察するためです。学性の皆さん、ご協力よろしくお願いします。

アンケートを強制するものではありません。答えたくない場合は答えなくても結構です。目的以外に使用しません。●秘密は厳守します。氏名は記入しないでください。提出に際しては、二つ折りにして、中身が見えないようにして提出してください。

以下の質問に答えてください。番号のところに○をつけてください。また、()
の中は、問いについて自由に記述してください。

あなたの性別は？ ①男性 ②女性 ③その他 ()

1. 性的マイノリティということばを知っていますか。

①はい ②いいえ

2. 知っていることばに○をつけてください。(複数回答)

①ホモセクシュアル(同性愛者) ②ゲイ ③レズビアン
④バイセクシュアル(両性愛者) ⑤トランスジェンダー(性同一性障害者を含む)

3. それらのことばどこで知りましたか。(複数回答)

①インターネット ②テレビ、映画、DVD ③漫画、アニメ ④雑誌 ⑤友人との会話
⑥学校で(小・中・高・大のいづれか?授業の科目名など) ⑦その他()

4. もし、あなたの友人が、性的少数者だったとしたら、あなたは、これまでと変わりなく、その友人と接することができますか。

①できない ②できる ③わからない

理由 ()

5. 男性同士が手をつないでいるのを見てどう思いますか。

①気持ちが悪い ②気持ちが悪いと思わない。 ③わからない

理由

()

6. 女性同士が手をつないでいるのを見てどう思いますか。

①気持ちが悪い ②気持ちが悪いと思わない。 ③わからない。

理由 ()

7. 男性が男性に恋愛感情を抱くのをどう思いますか。

①おかしい ②おかしくない ③わからない

理由 ()

8. 女性が女性に恋愛感情を抱くことをどう思いますか。

①おかしい ②おかしくない ③わからない

理由

()

9. 男女両方に恋愛感情を抱くことをどう思いますか。

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

①おかしい ②おかしくない ③わからない

理由

()

10. 身体の性（戸籍の性）と反対の性別を生きる人たちのことをどう思いますか。たとえば、男性（女性）として生まれたのに女性（男性）として生きている人について

①おかしい ②おかしくない ③わからない

理由 ()

11. 同性愛や性同一性障害などの性的マイノリティに対して、差別的な言動をすることは、「セクシュアルハラスメント」（性的いやがらせ）だと知っていますか。

①知っている ②知らない

12. 「ホモねた」などで同性愛をからかったり、うわさを流すなど、自分や周囲の人が性的マイノリティに対して偏見のある言動をとったり、そのような場面に出くわしたことがありますか。

(1) ①ある ②ない ③わからない

↓

あると答えた人のみ、回答してください。

- (2) それはどのような場面ですか。

①大学の中で ②飲み会で ③アルバイト先で ④家族の中で

⑤その他 ()

- (3) それはどのような言動だったか、具体的に書いて下さい。

()

13. あなたのまわりに、性的少数者と思える人はいますか

(1) ①いる ②いない ③わからない

↓

いると答えた人のみ、回答してください。

- (2) ①1~2人 ②3人以上

- (3) あなたとの関係は？（複数回答）

①自分 ②大学の友人・クラスメート ③小・中・高校のクラスメートなど

④家族 ⑤その他 ()

- (4) その人がどうして、性的少数者だと知りましたか。

自由記述 ()

- (5) その人はどのような人ですか。（複数回答）

①ゲイ ②レズビアン ③バイセクシュアル ④トランスジェンダー(性同一性障害を含む)

⑤その他 ()

14. 性的マイノリティに関して、あなたが気づいたこと、意見など、なんでも結構ですから、書いてください。

()

ご協力ありがとうございました。ご不明な点がございましたら、以下にご連絡ください。

調査者 北九州市立大学文学部人間関係学科 河島静代 研究室 (E-1108)

E-mail kawashima@kitakyu-u.ac.jp TEL 093-964-4152

关于性少数群体的大学生意识调查

调查时间 2016年6月27日~7月1日 提交截止日期7月1日

本调查问卷主要用于《日语写作第一册》第四单元的课堂教学，目的在于比较研究中日大学生对性少数群体看法。此问卷绝不用于其他目的，请大家放心填写！

*为保护隐私，请不要填写个人及他人姓名，问卷全凭自愿作答，填写完毕后，提交给本班学委。请回答以下问题，选择“其他”的同学在括号内填写理由。填写语言中日皆可。

你的性别 ①男 ②女 ③其他 ()

1. 你知道性少数群体吗? ①知道 ②不知道

2. 以下表态，你知道的哪些? (多选题)

①同性恋 ②GAY ③蕾丝边 ④双性恋 ⑤跨性别者

3. 上述表态你在哪里了解到的?

①网络 ②电视，电影，DVD ③漫画，动漫 ④杂志 ⑤朋友聊天
⑥其他 ()

4. 如果你的朋友是性少数者，你会一如从前地对待他/她妈?

①会 ②不会 ③不清楚

请叙述理由

()

5. 男士之间手牵手的行为，你怎么看待?

①恶心 ②不觉得恶心 ③不清楚

理由 ()

6. 女士之间手牵手的行为，你怎么看待?

①恶心 ②不觉得恶心 ③不清楚

理由 ()

7. 男士之间抱有恋爱情感，你怎么看待?

①奇怪 ②不奇怪 ③不清楚

理由 ()

日本と中国の大学生のLGBTに関する
意識についての試論的検討

8. 女士之间抱有恋爱情感, 你怎么看待?

①奇怪 ②不奇怪 ③不清楚

理由 ()

9. 对男女都抱有恋爱情感, 你怎么看待?

①奇怪 ②不奇怪 ③不清楚

理由 ()

10. 与身体性别(户籍上的性别)不同的生存方式, 你怎样认为? 例如, 男儿身(女儿身) 缺作为女性(男性)生活。

①奇怪 ②不奇怪 ③不清楚

理由 ()

11. 你周围有没有性少数群体(多选题)

①有 ②没有 ③不清楚

↓

回答有的同学请继续回答下面 4 道题

(1) 有几个人

①1~2 ②3 人以上

(2) 与你的关系? (多选题)

①自己 ②大学朋友, 同学 ③小中高同学等 ④家人

⑤其他 ()

(3) 你是怎么知道他/她性少数群体的?

自由填写 ()

(4) 他/她是哪种性少数者? (多选题)

①GAY ②蕾丝边 ③双性恋 ④跨性别者

⑤其他 ()

12. 请填写有关性少数群体, 你所注意到的事情, 意见等。

()

谢谢你的写作, 若有不明之处请联系我。

调查人 大连外国语学院 日语学院 日籍教师 河岛静代 办公室 11A133

E-mail kawashima@kitakyu-u.ac.jp 电话 13074138503

JOURNAL OF
THE FACULTY OF HUMANITIES
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU
(HUMAN RELATIONS)

Vol. 25

In Honour of Professor Shizuyo Kawasima

CONTENTS

Shizuyo Kawasima

Tentative Consideration of the Attitude about LGBT
toward Japanese and Chinese College Student 1

Published
by The Faculty of Humanities
The University of Kitakyushu
Kitakyushu, Japan
March 2018